



第22回

日台文化交流 青少年 スカラシップ

実施報告書



日台文化交流 青少年スカラシップ

実施報告

日本と台湾の青少年による文化交流の促進を目指す「第22回日台文化交流 青少年スカラシップ」は、独自の作文と4泊5日のツアープランを募集。作文部門に123点、ツアープラン部門に194点、合わせて317点の応募がありました。

第21回同様、台湾研修旅行を実施。大賞と優秀賞の計8名の学生が、3月23日から27日まで台湾を訪れ、現地学生との交流や政府機関への訪問を実施し、日台の交流をより深めました。また、ツアープラン部門大賞作品の一部を実際の研修旅行で訪問しました。

審査委員

審査委員長 渡辺 利夫 拓殖大学 特別顧問

作文部門審査委員

黄明珠 台北駐日経済文化代表処 広報部 部長
阿古 智子 東京大学大学院 教授
林 翠儀 自由時報 東京特派員
河崎 眞澄 東京国際大学 国際関係学部教授
桑村 朋 産経新聞 編集部

ツアープラン部門審査委員

黄美燕 台北駐日経済文化代表処 広報部 次長
王 紹 旬 台湾観光庁 東京事務所 所長
矢板 明夫 インド太平洋戦略シンクタンク 事務局長
千葉 信一 日本旅行業協会 (JATA) 海外旅行推進部 担当部長
片倉 佳史 武蔵野大学客員教授・台湾在住作家

※敬称略・順不同 ※2026年3月現在

入賞者

作文部門

大賞

中野 妃那 京都大学大学院 修士1年

優秀賞

石原 歩佳 法政大学第二高等学校 2年
塚原 佳那子 江戸川学園取手中学校 3年
弘松 詩菜 愛媛大学教育学部附属中学校 2年

奨励賞

大内 隆貴 早稲田大学 2年
大館 奈菜 東京国際大学 2年
亀山 紗来 広尾学園高等学校 3年
戸成 一翔 琉球大学 3年
舟山 恭平 早稲田大学本庄高等学院 3年
山本 旭隼 高槻高等学校 3年

ツアープラン部門

大賞

長南 晴矢 福島県立福島高等学校 1年

優秀賞

野寺 悠太 灘高等学校 1年
林 智哉 慶應義塾大学 4年
舟山 恭平 早稲田大学本庄高等学院 3年

奨励賞

黒田 知里 兵庫県立夢野台高等学校 2年
長南 陽向 福島大学附属中学校 2年
弘松 詩菜 愛媛大学教育学部附属中学校 2年
福盛 せいら 宮崎県立宮崎大宮高等学校 1年
藤内 俊太郎 さいたま市立大宮国際中等教育学校高等部 1年
吉田 隆聖 帝塚山高等学校 2年

※順不同 ※学校名・学年は2026年3月現在

主催：産経新聞社

共催：台北駐日経済文化代表処

協賛：JR東海

EVA AIR

プラスの力になる
台湾新聞
台湾と日本の架け橋。日本と台湾の両方で読める台湾新聞

協力：外交部 教育部 台湾日本関係協会

TAIWAN
WAVES OF WONDER

台湾観光庁

後援：

公益財団法人
日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association

自由時報

祝 辞

若者世代こそ 台日友好関係を深める鍵

台北駐日経済文化代表処 代表 李 逸洋



皆さん、第22回「日台文化交流 青少年スカラシップ」のご受賞、おめでとうございます。

「日台文化交流 青少年スカラシップ」は、日本の若者世代の台湾に対する理解を促進することを目的としており、2004年の初開催から今まで、210名を超える受賞学生たちが台湾を訪問しました。これまで受賞した先輩たちの多くは、政治、経済、マスメディアなどで活躍し、それぞれ異なる方法で台日交流に取り組んでいます。

台湾と日本は、自由、民主主義、法の支配といった基本的価値観を共有し、経済、文化、科学技術などの分野の交流が緊密で、互いに重要な友人です。近年、世界の半導体をリードするTSMC（台湾積体電路製造）熊本工場の開設、台湾フルーツの日本への輸出量増加、日本各地で開催されている「台湾祭」が好評を博していることなどにより、日本社会において「台湾」を知る機会はますます高まり、若い学生たちにも台湾への興味を持ってもらえるようになりました。

インターネットの情報化が爆発的に進んだ今、日本にいながら簡単に台湾に関するさまざまな情報を入手できますが、実際に台湾に行つて体験することは、何ものにも代え難いといえます。今回の台湾研修旅行では、中部サイエンスパーク管

理局、農業部(省)茶・飲料作物改良場中部分場の訪問や、台湾民主化の歩みを紹介する中正紀念堂「自由の花蕊」展の見学などを通して、台湾の半導体などの産業の現況、台湾茶業への日本の貢献、台湾が権威主義統治から民主主義体制へ移行する道のりなどの認識を深め、より包括的に台湾を理解できたことと思います。

台日間の人的往来は極めて緊密で、2025年の台日間の相互往来者数は延べ824万人に上り、今年1月から3月までの相互往来者数はすでに延べ240万人に達しています。そのうち、双方から修学旅行、交換留学生、ワーキングホリデーのために訪問する若者も少なくありません。私たちは旅行・留学などの体験を通して、日本の若者の台湾に対する興味と好感を育み、より多くの台日友好を促進する人材を育てていけるよう期待しています。

学生時代に外国の歴史・文化に触れ、外国の友人と知り合うことは、極めて貴重な経験です。駐日代表処は引き続き「日台文化交流 青少年スカラシップ」の活動を通じて、双方の学生交流を推進し、台日の友情がより一層深まり、緊密になることを望んでいます。

今後、皆さんが、さまざまな分野で成功を収め、台日関係をつなぐ懸け橋となることを心より祈念いたします。

審査委員長 講評

台湾の歴史の深層を学ぶ

拓殖大学 特別顧問 渡辺 利夫



第22回日台文化交流 青少年スカラシップ・作文部門の大賞には、京都大学大学院の中野妃那さんの「時を越えて繋がる、私と台湾」が選ばれました。おめでとございます。中野さんは、戦時下の過酷な状況を台湾の人々とともに過ごした曾祖母の手記を読んで、この「曾祖母が苦境の中にありながらも台湾の人々に愛されながら生き延びたことを知り、曾祖母があつてこそ今の幸せな自分があるのだ、そういう趣旨のことを情感あふれる文章で描いています。

そして中野さんは、そうであればこそ、「曾祖母が愛し、そして私へと命を繋いでくれたこの島」台湾のことを、何より台湾の歴史の深層を学ぶことが自分に課せられた使命ではないかと考えるに至った、その経緯を実に的確な文章で描いています。中野さんの作文には第一級のエッセイとして私は高い評価を惜しみません。

日台文化交流 青少年スカラシップには、作文部門とは別に、昨年度からツアープラン部門が設けられました。台湾の魅力を伝える4泊5日のツアーを自由にプランしてもらい、これを審査の対象とするというユニークな企画です。数多くの企画を提案いただきました。

このツアープラン部門で大賞に輝きましたのは、福島県立福島高等学校の長南晴矢君の「令和の米騒動。台湾の農業発展に貢献した日本人を学ぶ縦断旅。」です。

台湾映画「KANO」をツアープランの基軸として、台湾の農業発展に寄与した日本人、第4代台湾総督児玉源太郎、総督府民政長官後藤新平、さらに新渡戸稲造、八田與一、磯栄吉などが活躍した台湾各地を歩いて、その歴史を現代に蘇らせようという、実によく練られたプランです。プランに沿って大いに台湾をエンジョイしてください。



京都大学大学院 修士1年

中野 妃那

想いを形に、未来へ。

この度は「第22回日台文化交流青少年スカラシップ」作品部門において、大賞に選出いただき誠に光栄に存じます。選考委員の皆様、ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私の作文の核になったのは、戦時中に台北で二十年ほどを過ごした曾祖母の体験記です。戦時中身籠り命を繋ぐために必死に耐え抜いた日々。そして引き揚げ時の「また来いよ」という現地の方の言葉に支えられ、台湾を故郷と呼び続けた曾祖母。その想いの源に触れたいと筆を執ったことが、受賞に繋がったと感じています。

副賞としていただいた台湾研修旅行は、その「問い」に対する答えを自分の目で見つけるとともに、私自身の価値観を大きく揺るがす貴重な機会となりました。台中サイエンスパークや各政府機関を訪問し、現地の方々と対話を重ねる中で最も印象に残ったのは、台湾の皆

様が持つ圧倒的な「実行力」です。

「日本人は慎重に考えてから行動するが、台湾人は考えたことをすぐに行動に移す。」訪問先で伺ったこの言葉は、変化を恐れず未来を切り開く台湾のダイナミズムを象徴しています。

こうした現地の熱量に触れ、私が心から実感したのは「学ぶことの大切さ」です。自ら求め、知識を得て、それを実際の行動へと移す。その主体的なプロセスがいかに人生を豊かにするかを、身をもって理解しました。

今回、この日台スカラシップという存在を知り、勇気を出して応募しなければ出会えなかった仲間たちの存在も、私にとって大きな財産です。年齢も出身地もバラバラですが、「台湾に興味がある」という一点で結ばれた仲間たち。この不思議な縁と、共に過ごした時間は、何物にも代え難いものです。

この受賞は曾祖母から託されたバトンを次世代へと繋ぐためのスタートラインです。「また来いよ」という言葉に導かれるように訪れた台湾で、私は多くの希望と絆を受け取りました。今後はこの経験を糧に、自ら学び行動し続ける姿勢を大切にしながら、日本と台湾のさらなる交流の発展に貢献できるように、精進を重ねていきます。

優秀賞



愛媛大学教育学部附属中学校 2年
弘松 詩菜

知ることが、
架け橋になる日を信じて

松山と台湾への思いを込めた作文に優秀賞という栄誉をいただき、この物語が届いたような喜びを感じています。

松山商業のすぐそばに住みながら、私はKANOを知りませんでした。舞台との出会いが、台湾という国への扉を開き、百年前の絆が今も松山と嘉義を結んでいることを教

えてくれました。

同世代にこの物語を知る人は少ない。忘れられていく前に伝えたい。そんな思いでこの作品を書きました。

この作文で、KANOを知り、台湾へ興味を持つ人が人でも増えてくれたら、と願っています。百年前、野球が国境を越えたように、日台交流の新しい世代として、私も言葉で架け橋になれるよう歩み続けます。

優秀賞



江戸川学園取手中学校 3年
塚原 佳那子

台湾から考える世界平和

この度は日台文化交流青少年スカラシップにおいて優秀賞に選出いただきありがとうございます。私が台湾に興味をもったのは幼いころに見た絵本がきっかけでした。戦争や紛争が続く昨今の世界情勢から平和について改めて考える機会があり、今回応募いたしました。研修旅行では

現地の人のお話を伺って日本統治時代に関することや、日台関係の絆を再認識することができました。かけがえのない隣人である台湾と日本がさらに交流を深めていきますように、みんなが平和に暮らしていけますように。そう願いながらこれからの未来に自分ができることを考えていきたいと思っています。

優秀賞



法政大学第二高等学校 2年
石原 歩佳

言葉では言い尽くせない
感謝の気持ち

この度は、優秀賞という素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思っております。受賞のご連絡を頂いた際には、驚きとともに大きな喜びを感じました。評価して下さった審査員の皆様をはじめ、本機会を実現してくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

作文でも述べたとおり、私は17歳を「挑戦の年」にしたいと考えております。台湾研修はその挑戦の一つです。母の経験をきっかけに関心を持つようになった台湾に訪れ、自らの目で見て、心で感じたことをしっかりと吸収し、学びにつなげてまいります。そして、その学びを日台の未来を支える力へと変えていきたいと思っています。



福岡県立福岡高等学校 1年

長南 晴矢

日台スカラシップへの想い

私が日台スカラシップに応募したきっかけは、台湾を舞台とした映画「KANO」に出会ったことでした。車の中で父がDVDを流してくれたのを見て知り、台湾に興味を抱くようになりました。この映画で一番私の勉強になったのは台湾で活躍した日本人が沢山いたという事実でした。特に印象に残っているのは水利技術者の八田與一氏です。「嘉南大圳」を完成させた人物として映画にも登場する人物です。この人物こそが今回作成したプランの元となるニュースの中心でした。2025年の9月、八田氏の故郷である石川県に台湾米が送られたというニュースを知りました。米の高騰や不足が続く日本のためにと送られた台湾米。日本統治時代の台湾で水不足を解消し、稲作ができるようにと走り続けた八田氏を含む多くの日本人の努力や頑張

りが90年の時を経て日本に返ってきたのだと心から感動しました。そのような背景から私は日本統治時代に活躍した日本人について学ぶことをメインにツアープランを作成しました。台湾で活躍した日本人について調べ、その人物に関する場所を調べるという工程は大変ではありますが、その都度感動の連続で、より興味が深まっていくのを感じていました。苦勞した分受賞の喜びは言葉で表すことのできるものでは無く、本当に挑戦してよかったと心から感じました。研修旅行では実際に自分がツアープランに入っていた場所も巡る事ができ、日本統治時代の建物が残る当時のままの姿は、本やネットで見たのとは比にならないほど大きく、美しく感じました。また、普通の観光旅行では経験することのできない行政機関への訪問やホームステイが行えたこともいい経験になりました。言語、食事、様々な文化が異なる中、私たち日本人も現地の人も笑顔で触れ合えた5日間が私の宝物です。これからも日本と台湾が平和で、笑顔で行き来できる関係であり続けることを心から願っています。この度は大賞に選出していただき、誠にありがとうございます。

優秀賞



早稲田大学本庄高等学院 3年
舟山 恭平

国際情勢への関心から台湾へ
この度は、日台文化交流 青少年スカラシップのツアープラン部門において優秀賞をいただき、大変光栄に存じます。本プロジェクトに応募したのは、日々のニュースを通じて国際情勢に関する話題に触れる中で、台湾という存在により深く興味を持ったことがきっかけです。4泊5日の研修

旅行では、通常の観光では訪れることのできない場所へ足を運び、多くの方々との交流させていただくという、大変貴重な経験を積むことができました。この研修を通じて、日本と台湾の結びつきが私の想像以上に強く、深いものであることを肌で学ぶことができました。

優秀賞



慶應義塾大学 4年
林 智哉

初めての海外となる台湾で学び、将来の糧に
この度は日台スカラシップを受賞することができ、本当に嬉しく思っております。これまで海外に対して漠然とした憧れや興味を持っていたものの、実際に渡航する機会はなく、今回の台湾訪問が私にとって人生初の海外となりま

す。この貴重な研修旅行を通して、台湾の文化や社会、歴史について多くのことを肌で感じ、深く学んでいきたいです。そして、この経験で培った多角的な視点を、将来ジャーナリストや社会学者、あるいは政治家として社会に貢献していくための確かな糧として生かしていく所存です。

優秀賞



澁高等学校 1年
野寺 悠太

技術と台湾
この度は、日台スカラシップツアープラン部門において優秀賞に選出していただき、本当にありがとうございます。受賞の知らせをいただいたときの嬉しさは、今でもよく覚えています。私が台湾の技術と出会ったのは、昨年の万博でTECH WORLD館を訪れた際でした。技術を通して表現された

台湾の自然や文化の展示に深く心を打たれ、技術は単体ではなく、その土地の背景と結びつくことで意味を持つのだと実感しました。地理的にも心理的にも距離の近い国、台湾。これからも両国の技術交流が続いていくことを願うとともに、私自身もその一助になれるよう精進してまいります。

学びと出会いに溢れた

台湾研修旅行 4泊5日の思い出

多くの応募者の中から選ばれた8名の学生は、3/23～27の4泊5日の研修旅行に参加。

ツアープラン部門大賞作品のプランの一部を組み込み、第22回ならではの研修旅行となった。

観光旅行とは違ったスポットや現地の方々との出会いで大きな学びと成長に繋がった5日間をご紹介します。

1日目

出発と、台中の新旧に触れる

和やかな雰囲気ですスタートした台湾研修旅行は、バスに乗り羽田空港まで向かった。

エバー航空の飛行機に乗り込み、台北・松山空港に到着したら、今度は台湾高鐵の新幹線で台中へと向かう。

訪問先の中部サイエンスパークでは、管理局の方からサイエンスパークの取り組みや最新技術についての説明を

受け、台湾の最先端技術の学びを深めた。

学生からは、「サイエンスパークとして過去の遺跡・遺産を守ることの意味」が問いかたられ、管理局職員は「遺跡が発見されたら詳しい調査をし、保存する。遺跡は当時のハイテク技術であり、そこから学び得るものは大きい。過去の遺産を保存・継承



サイエンスパークでお出迎えいただいた

しながら、現代の最先端技術を日々研究していく」と答へ、日本と台湾、過去と現在が結びついていることを学んだ。

最先端の台湾について学び終えれば、1927年に日本人医師が開院した眼科の当

2・3日目

ホームステイと日月潭

2日目は台中市立台中第一高級中学との学校交流から始まった。

まずは教員の方にキャンパスを紹介してもらい、日本の大学さながら広大なキャンパスに研修生は驚きを見せた。

次は授業見学。日本での授業との違いなどを体感した。特に授業の自由な雰囲気と、デジタルデバイスをフル活用した授業形態が印象深かったようだ。

学校を後にした研修団は、ツアープラン大賞作品にもあった日月潭の茶葉改良場・魚池分場を訪問。台湾紅茶の改良現場や茶畑、史料館を見学し、産地や、それに貢献した日本人・新井耕吉郎についても学びを深めた。

美味しい台湾紅茶で息ついたら、ホームステイ先と合流し、台湾での生活体験に胸

時の建造物を残した人気スweets店「宮原眼科」へ。学生たちは当時から残る建物に魅了されながら、店内では日本へのお土産や人気のアイスクリームを楽しんだ。

を離らせながらそれぞれの帰路についた。

翌朝、ホームステイ先の方々と別れの挨拶を済ませ、再び台湾高鐵の新幹線に揺られ、台北へと向かった。

台北駅についたら、まず向かったのは中正紀念堂。中正紀念堂管理处の方に「自由の花展」をガイドしてもらった。蔣介石時代の戒嚴令など厳格な管理社会について学び、研修生たちは自分たちの今の環境を見つめなおすきっかけ



茶葉改良場にて茶葉の香りを楽しむ

にもなった。

次は東呉大学の学生との交流の時間。様々な国籍の学生が受ける中国語の授業に参加した。グループワークも混ぜてもらい、大学生たちと英語や中国語を交えて交流を深めながら、中国語の単語や構文を勉強した。キャンパスツアーは日本から東呉大学に進学した2人に案内してもらい、台湾の大学に進学した理由や、そこでの学びの良さなどを語ってもらうことで、研修生たちは自身の少し先の将来を考える機会となった。

夕食にはツアープラン部門審査員の矢板明夫氏をお招きし、台湾についてのお話を伺いながら夕食を楽しんだ。研修生からは自身の将来についての質問もあり、矢板氏からの貴重なアドバイスもいただき、研修生は有意義な時間を過ごした。



台湾の英語の授業に参加

スケジュール

1日目 3月23日(月)

朝 | 産経新聞社東京本社1Fロビー 集合
午前 | 羽田空港発(エバー航空)にて台北へ
午後 | 台北(松山空港)到着
午後 | 台湾新幹線にて台中へ移動
午後 | 中部サイエンスパーク管理局 訪問
夕方 | 夕食(燻品棧)、
宮原眼科(各自カフェ・スイーツ休憩)
宿泊 | 台中:パークレーンイン(金典緑園道商旅)

2日目 3月24日(火)

午前 | 台中市立台中第一高級中学にて学校交流
昼頃 | 昼食(金都餐厅)
午後 | 茶葉改良場・魚池分場 訪問
午後 | 文武廟 見学
夕方 | ホームステイ先の先生・学生と合流し、
各家庭へ移動
宿泊 | 台中:各ホームステイ先(※夕食も各家庭にて)

3日目 3月25日(水)

朝 | ホームステイ先の方と一緒に学校へ到着
午前 | 台湾新幹線にて台北へ移動
昼頃 | 中正紀念堂 見学、昼食(大戈壁蒙古烤肉)
午後 | 東呉大学にて授業体験・
キャンパスツアー
夕方 | 龍山寺 見学
夜 | 夕食(中華楼)
宿泊 | 台北:メトロホテル(豪爵大飯店)

4日目 3月26日(木)

午前 | 教育部 表敬訪問
午前 | 外交部 表敬訪問
昼頃 | 昼食(打狗霸)
午後 | 華山1914文化創意産業園區 散策、九份老街 散策
夜 | 夕食(聚園園餐厅)
夜 | 士林夜市 見学
宿泊 | 台北:メトロホテル(豪爵大飯店)

5日目 3月27日(金)

午前 | 総統府、国立台湾博物館 見学
昼頃 | 昼食(好記)、お土産等のお買い物
夕方 | 台北(松山空港)発(エバー航空)にて
帰国の途へ
夜 | 羽田空港 到着
夜 | 専用バスにて東京駅へ移動
解散 | 東京駅 丸の内口側にて解散



中国語で自己紹介(東呉大学)



ホームステイ先の皆さんと

4日目

台湾の今を知る表敬訪問

4日目の朝は表敬訪問へ。今回は教育部と外交部、台湾日本関係協会へ伺った。教育部では台湾での教育制度を紹介いただいた。また日本と台湾における助け合いの精神についても学んだ。研修生たちは台湾の学びやすい環境を知ること、今後自分がどこで何を学びたいのかを考えるきっかけとなった。研修生からは台湾の学費が比較的安価な理由を聞かれ、教育部は「第一に教育を重んじる文化と価値観があり、その価値観から政府も教育に対する補助金などの制度も充実させていることが非常に大きい」と答えた。次に訪問した台湾日本関係

係協会では、台北駐日経済文化代表処の前代表である謝長廷会長にもお迎えいただき、研修旅行団の訪問を歓迎するお言葉を頂くとともに、日本と台湾の友好的な関係について語っていただいた。お話は政治や経済などと多岐にわたり、政治は民主主義の歴史や現在の2党制について、経済はTSMCをはじめとする半導体産業を中心としたサプライチェーンの強化を期待することをお話しながら、半導体産業における台湾の存在感を研修生にも示した。緊張感にあふれた表敬訪問が無事に終了すると、次は研修生もお待ちかねの九份へ。

天候にも恵まれ、約1時間の滞在中で研修生たちはタピオカドリンクを一緒に買った。日本へのお土産を吟味するなどして、台湾きつての観光地を堪能した。夕食には昨日に続きツアープラン部門の審査員でもある片倉佳史先生にもお越しいただき、研修生たちと食事をした。

5日目

学びの振り返り、そして別れ

いよいよ最終日を迎えた研修旅行団は、午前中に総統府と国立台湾博物館を見学した。総統府にはこれまでの総統や台湾を舞台とした漫画などの作品、また台湾の未来が展示され、国立台湾博物館には台湾の歴史や原住民についてが展示されており、今回の研修旅行を総括するような史料を前にし、研修生たちは5日間の振り返りとしてこの新たな学びで台湾への理解を広げ、また深めた。

あっという間に夕方になると、エバー航空の飛行機に乗り込み、日本に帰国した研修生たちは、東京駅で4泊5日をともにした仲間と別れを告げて、それぞれの家路へと歩を進めた。今後の日本と台湾の友好な関係と8人の再会に期待したい。



台湾博物館の歴史年表に夢中な研修生たち



帰りの空港にて。すっかり仲良しに



謝会長の貴重なお話を伺った

時を越えて見つめる、 私から見た台湾の姿

京都大学大学院 修士1年 中野 妃那



中正紀念堂での写真(右が私)

対話から見えた、台湾のしなやかな「実行力」

今回の表敬訪問や施設見学を通じて、私が最も強く感じたのは、台湾が持つ圧倒的な「実行力」としなやかな社会構造である。台湾日本関係協会での対話において、特に印象的だったのが憲法改正の例だ。慎重に議論を重ねる日本に対し、台湾ではこれまでに七回もの憲法改正が行われているという。この事実が、社会の変化やニーズに対し、制度を柔軟かつ迅速にアップデートしていく台湾の姿勢を象徴しているのではないが。

こうした実行力は、教育現場や産業界の仕組みにも深く根付いている。教育部では、学生が世界をフィールドに挑戦できるよう、多層的な奨学金制度や産業界との連携した実



龍山寺

生活に息づく文化と、世代を越えて繋がる学びの縁

実践的なカリキュラムが整備されている。単に知識を蓄えるだけでなく、多様な価値観に触れながら社会に出る準備を整える仕組みは、若い世代が主体的に学び、即戦力として活躍できる土壌を生み出している。

さらに、台中サイエンスパークでは、この実行力が「循環経済(サーキュラーエコノミー)」の形で結実し

台湾の活力を支えているのは、単なる制度の合理性だけではない。生活文化の深層に触れる中で、私はその源流を垣間見た。特に驚かされたのは、三食すべてを外食で済ませるという食文化スタイルだ。共働き世代が一般的であるという社会的背景に加え、古くからの屋台文化が現代の生活基盤として見事に根付いている。龍山寺や中正紀念堂といった歴史的建造物が街に溶け込み、人々が熱心に祈りを捧げる光景と、コンビニや屋台が並ぶ利便性が共存している姿は、伝統を大切にしながらも変化を柔軟に受け入れる台湾の「しなやかさ」そのものだった。

この研修旅行を何物にも代え難い経験にしてくれたのは、共に歩んだ仲間との存在である。年齢も専門も異なる私たちが「台湾」という一点で結ばれ、移動中や食事の際にも多くの会話を重ねた。共通の関心を持つ仲間と切磋琢磨することで得られる学びの深さを、私はこの五日間で痛感した。

ている様を目の当たりにした。特筆すべきは、パーク内に運用されている資源再生利用センターである。従来は外部委託していた廃棄物処理を、パーク内で完結させる技術基盤を構築。例えば、半導体製造に不可欠な石油由来物質「IPA」をリサイクルし、TSMCなどの企業へ還元する仕組みを運用することで、二酸化炭素排出量を四万トン削減するという驚異的な成果を上げている。



九份での写真



總統府見学時の写真

SNSでは伝わらない ぬくもりを感じた台湾

法政大学第二高等学校 2年 石原 歩佳



中正紀念堂で儀仗隊交代式見学後

台湾の教育環境に初めて触れた5日間

日台交流を通して、特に印象的だったのは、実験教育や国際教育、そして多様な文化を受け入れる教育環境である。

初日に訪れた中部サイエンスパーク内にある国立中興高級中等学校は、そこで働く人々の子どもが通い、実験教育を通して知識の定着と探究心の育成が両立されている。国際的な教育環境や多文化共生の環境が整えられているからこそ、海外からの人材が安心して働けるのだと

感じた。

台中市立台中第一高級中学では、生徒主体の活気ある授業を体験した。授業では、堂々と英語を話す同年の生徒に刺激を受け、自分の英語力がまだ十分でないことを痛感した。先生からは、生徒の学力が高いため、授業には工夫や面白さが必要であり、生徒が主体的に学べる授業づくりが重要であると伺った。一方で、日本と同様に教員不足の課題も抱えていることも知った。



中正紀念堂の展示、言葉にならない気持ちが押し寄せた場所

教育部や東呉大学訪問を通して、台湾が国をあげて国際教育に取り組んでいることも理解した。2030年までに「バイリンガル国家計画」の達成を目標としている。台湾の教育への熱意に圧倒されると

ともに、多国籍な学習環境や奨学金制度の充実により、国際教育の基盤が広く整えられていることを実感した。

今回の研修を通して、台湾の教育環境を目の当たりにし、日本との共通点や違いを理解した。そこから、生徒主体の学びや国際教育、多文化共生の重要性を学んだ。国全体で教育に取り組む姿勢を学び、日台の教育発展に貢献できる人材になりたいと思った。このような機会に恵まれたことに深く感謝するとともに、幸せな5日間だと感じた。

かけがえのない絆を得た台湾研修

授賞式に参加し、日台スカラシップの長い歴史を伺い、その一員となれた誇りと責任を感じた。憧れていたホームステイでは、台湾の日常や文化に触れ、言葉の壁を越えた交流の尊さを感じた。

台湾は外食文化が盛んだと聞いていたが、ホストファミリーは心を込めて家庭料理を用意してくださった。私たちが「おいしい」と口にすると、その言葉を知っていたホストマザーは笑顔で応えてくれた。また、台湾語では「好吃」だと教えてくれ、何気ない会話や表情のやり取りからも、人の心は通じ合えるのだと実感した。夜市や台湾スイーツなど、短い時間でさまざまな台湾文化に触れさせてくれた感謝を伝えたくて、慣れない言語に苦労しながらも、気持ちを伝えようと夜遅くまで手紙を書き進めた。そのとき、17歳の母が台湾の方と文通を続けている気が持ちを想像することができた。



ホストファミリーへの感謝の手紙

うまく言葉にできないものかしが、あつても、自分の言葉で想いを伝える楽しさがある。こうして歴史や距離を超えたぬくもりを感じ、台湾がより身近な存在に思えた。

さらに、全国から集まった仲間との出会いもかけがえのない経験だった。はじめは緊張していたが、宮原眼科でアイスを分け合い、写真を撮り合う中で自然と会話が弾んだ。初めての体験や感動を共有するうち

に、次第に距離を感じなくなっていた。互いの考えや価値観に触れることで視野も広がった。今後は、異文化や新しい仲間との交流で得た絆を胸に、日本と台湾をつなぐ架け橋となるよう、努力を続けていきたい。台湾研修への挑戦が、多くの素敵な出会いと学びを生み、これから自分にとって大きな力となった。



笑顔が広がった宮原眼科のアイスクリーム

台湾で学んだ 「自由」と「平和」の大切さ

江戸川学園取手中学校 3年 塚原 佳那子



中正記念堂にて(左が私)

たくさんの人にお世話になった台湾研修旅行

今回の研修旅行は、私にとって初めての海外経験でした。最初は不安で緊張していましたが、研修の仲間や事務局の方々、そして現地の皆様が温かく接してくださり、少しずつ慣れていくことができました。

ホームステイでは、ホストファミリーとともに夜市に出かけたり買

台湾で学んだ世界平和

今回の研修旅行では、台湾の日本統治時代の歴史や現在の民主主義について学ぶ機会がありました。実際に現地で説明を受けたり関連する場所を訪れたりする中で、教科書だけでは分からない、より現実に近い歴史や社会の姿を感じることがで



蒋介石の銅像

きました。

また、今回の研修では、矢板明夫さんと会食する機会があり、台湾の社会や政治について直接お話を伺うことができました。お話の中では、日本の首相が台湾で高い関心を集めていることや、台湾の政治の仕組みや特徴についても教えていただき、政治をより身近に感じることができました。さらに中正記念堂でも多くの貴重なお話があり、館内にある蒋介石の像に対する国民の意見が一樣ではなく、さまざまな考え方が存在していることを知りました。「自由の花」展では、台湾の民主主義化の過程や第二次世界大戦後の歴史について学び、自由や平和が当たり前のもではないことを実感しました。

私は日本に生まれ育ったため、こ



衛兵交代式

れまで民主主義や自由は当たり前のものだと考えていました。しかし海外について学んでいく中で、自分の意見を自由に発言したり行動したりすることが難しい国が存在することを知り、大きな驚きを感じました。また台湾についても、以前は「民主主義で平和である」という印象を持っていましたが、実際には中国との複雑な関係を抱えており、現

在の民主主義も約40年前に確立されたものであることを知りました。さらに教育部や外交部への表敬訪問の際にも、現地の方々から政治や国際関係について直接お話を伺うことができました。これらの経験から歴史や政治を多角的に捉えることの重要性を学ぶことができ、将来の進路についても改めて考えるきっかけとなりました。

今回の研修旅行では、普段は行くことのできない場所を訪れ、貴重なお話をお聞きする機会をいただけたことに感謝しています。また、共に過ごした七人の仲間と出会えたことも忘れられない思い出です。今回の経験をこれからの生活に活かし、平和の大切さを意識しながら、行動につなげていきたいと思っています。



ホームステイ先で乗ったレンタルバイク

これまでの私、これからの私

愛媛大学教育学部附属中学校 2年 弘松 詩菜



右が私

臆病で人見知りな私が、年上の初対面の人たちと海外に行く。出発前は不安でいっぱいだった。台湾についての知識も他の参加者よりも乏しいだろう。そう考えていた私が、この研修旅行で大きく変わることになる。

**知らなかった台湾、
飛び込んでみたら**

台湾は親日家が多いと聞いていたが、この短い研修旅行の中でもその温かさをしっかりと感じた。ホームステイでは、台湾の家庭の日常を垣間見ることができた。ホストファミリーと台中の夜市を歩き回り、賑やかな屋台の熱気の中で笑い合った。言葉が十分に通じなくても、気持ち



ホストファミリーと

は伝わる。もつと深く知り合いたい。短い時間だったからこそ、そんな気持ちが強くなった。
九份では写真で見た石畳の坂道と提灯の灯りが、目の前に広がった。レトロな街並みに見惚れた。士林夜市では、活気あふれる台湾の夜の文化を味わい、時間が足りなかった。絶対にまた来たいと思った。



東呉大学のキャンパス

街中に点在する防空避難施設のステッカー。最初はなんなのかわからなかった。しかし研修で学ぶうちに、台湾が今もいつ何が起きるかわからない緊張の中にあることが、日常の中にあるそのステッカーからもリアルに胸に迫った。台湾を「観光地」としてだけでなく、歴史と政治の文脈の中で考えるきっかけをもらった。

東呉大学では、中国語の授業に外国人留学生と参加し、英語でやり取りをした。スマホ



外交部の表敬訪問

があれば言葉は翻訳できる。でも自分の言葉で直接話すことは、機械には出せない温度がある。もつと外国語を学びたい。もつと自分の言葉で話したい。あの教室で、その気持ち

が膨らんだ。
教育部・外交部への表敬訪問も、忘れられない体験だ。さらに、矢板明夫氏と会食し、直接お話を聞く機会を得た。台湾のことだけでなく、政治や国際情勢について、難しい話をわかりやすく話していただいた。知らない、わからないではなく、知ろうとすればわかることがたくさんある。そのことを矢板氏に教えてもらった。

**8人の仲間と過ごした、
宝物の5日間**

年上のメンバーは皆、しっかりと考えた広い視野を持つ人たちだった。同年代とだけ過ごしてきた



帰国前の松山空港にて。仲良くなった8人で

私には、その考え方や行動力に憧れ、大きな刺激になった。台湾のことを知れただけでなく、このメンバーと時間を共にできたこと自体が、私にとってかけがえのない宝物だ。
出発前と今とは、自分でもはっきりわかるほど意識が変わった。台湾が、そしてこの仲間たちが、私を変えてくれた5日間だった。
この研修旅行を終えて、私はもつと台湾を知りたいと思っている。一度訪れたからこそ、次に行く時には今よりも深く台湾を見つめることができるはずだ。そのために外国語を学びたいし、知らなかった歴史や政治のことも、少しずつ知っていきたい。出発前の私と今の私は、明らかに違う。その変化を、これから自分なりに活かしていきたいと思っている。

違いの中に 台湾で見た平和の鍵

福島県立福島高等学校 1年 長南 晴矢



台湾紅茶のルーツをたどる

台湾で大活躍！

人生二度目の台湾旅行。今回の自分のテーマは「台湾で活躍した日本人」。4泊5日と長いようで短い研修できる限り多くのことを吸収したい。宮原眼科、日月潭、台湾総統府、台湾博物館と、日本統治時代の台湾や日本人に深く関わりのある場所を巡る絶好の機会。日月潭で新井耕吉郎、台湾博物館では児玉源太郎と後藤新平の像にもご挨拶。特に児玉源太郎と後藤新平はこの2人を学ばずして今回の旅は成立しない」とツアープランに明記したほどの重要人物。最後の最後にはなつたが、しっかり学び、挨拶もすることができて本当によかった。

また、日本統治時代と比べるとかなり最近の「活躍」にはなるが、2007年に開業した台湾高速鉄道もまた日本の新幹線技術が大きく関わっており、台中と台北の間の移動でも台湾での日本の活躍を肌



学びがぎっしり詰まったノート



歓待に感激



台湾外交部に訪問

自分の頭の中ですっきり霧が晴れるような感覚。二度目の台湾、それも4日目の夜にして、ようやく答えが出た瞬間だった。別の人同士が楽しく同じ時を過ごすのに、言語など関係ないのだ。思えばいきなり東京

約束は「笑顔だけ」

で感じる事ができたという意味でも貴重な経験になった。

日本と台湾では、食文化も、食事中に飛び交う言語も少し違っている。円卓を囲む、そもそも家ではあまり料理を作らない、夜市や外食が多い：数え出したらキリがないほどの違いがある日本と台湾だが、それでもホームステイ先の方と食べた火鍋

「約束は笑顔だけ。楽しそうに食べる。それだけなんだ。」
最後の夕食の席でお会した片倉さんに質問させていただいた。返ってきた答えはシンプルだった。
「約束は笑顔だけ。楽しそうに食べる。それだけなんだ。」



日本の技術が生かされた台湾高速鉄道で移動



ホームステイ先で食べた火鍋

のビルで集まった、出身地も年齢も違う参加者たちが楽しく5日間を過ごせたのも、笑顔が飛び交っていたからだ。
私が今回の研修旅行で見つけた平和の鍵は「笑顔」だ。これからの日本と台湾を結ぶ架け橋は笑顔であつて欲しいし、両国を行き来する人々が笑顔であつて欲しいと心から思った。

ツアー参加者のみなさんへ。みなさんの笑顔があつたから、私はすごく幸せな5日間を過ごしました。みなさんの笑顔のおかげで、一人旅では見つけられない宝物に出会う事ができました。これからも私は笑顔を大切に、人との関わりを通して自分を成長させられる、そんな高校生活や今後の人生を送っていきます。いつかどこかで、またみなさんの笑顔を見るのを楽しみにしています。また会おう。

初めての台湾研修： 文化の違いと自身の課題

慶應義塾大学 4年 林 智哉



總統府にて撮影。メンバーからは「政治家として風格がある」とのことである

私にとって初めての海外となる、日台スカラシップの4泊5日の台湾研修旅行。現地での濃密な時間は、私のキャリア観や異文化への認識、そして今後の自己研鑽に対する大きな気づきを与えてくれた。

矢板氏のキャリア助言と、 日台の文化比較

今回の研修で最も大きな収穫の一つが、矢板明夫氏との食事会である。私は将来、ジャーナリスト、政治家、学者の3つの道で活躍したいという目標を持っている。それゆえ、松下政経塾を経て中国社会科学学院で博士号を取得し、産経新聞等で活躍してきた矢板氏に直接ご相談できたことは非常に有意義だった。私の欲張りなプランニングに半ば呆れられたつも、目標に向けた順序や、現在の情勢を踏まえた現実的なアドバイスを頂戴した。この助言を得られただけでも、本スカラシップに参加した意義は十分にあった。

また、台湾の街を歩く中で、日本と違うことと変わらないことの双方を肌で感じた。最も驚いた違いは、トイレットペーパーを便器に流さずゴミ箱に捨てる習慣で、最後まで慣れずつかかり流しかけることもあった。さらに、圧倒的なバイクの多さや、大都市でも歩道が路上駐車で塞がれている光景にはカルチャーショックを受けた。

一方、華山1914文創園區を訪れた際、日本のアニメ展示に熱狂する多くの人々を見て、アニメに夢中になる熱量は日本と変わらないと親近感を覚えた。また、台中のホームステイ先の高校英語教師の方が、日本の英語教師と同じ独特のノリを持っていたことも、日台の不思議な共通点として印象に残っている。



華山1914文創園區にて撮影。
「薬屋のひとりごと」は台湾でも人気を博していた

言葉の壁を痛感した 交流と英会話習得の決意

こうした発見がある一方で、自身の語学力不足という課題にも直面した。英語に苦手意識があり海外経験も皆無な私だが、研修中は通訳のサポートもあり、最終日には街の店でルーロー飯を一人で買える程度には案外何とかなると実感した。初日はコンビニでエナジードリンクを買っただけで緊張していたことを思えば、表面的な行動において言葉の壁は低いのかもしれない。

しかし、現地の人との深い交流となると話は別だった。台中のホームステイ先ではほとんど言葉を交わせず、最終的に相手が折れてスマホの翻訳機能を使ったり取り返りになってしまった。東呉大学の体験授業で



初日に台北駅内のコンビニで購入した台湾のエナジードリンク。コンビニ内にはモンスターやレッドブルといった日本でも馴染みのエナジードリンクも売られていた



最終日に購入したルーロー飯。とても美味しかった

も同様に、現地の留学生に翻訳アプリに頼らせてしまった。彼らの優しさに救われた反面、自らの言葉で意思疎通できず相手に負担をかけたという申し訳なさで胸がいっぱいになった。

観光旅行程度なら、語学力がなくても乗り切れる。だが、国境を越えて人と真に交流するには、やはり自らの言葉が不可欠だ。相手への敬意を示し、迷惑をかけないためにも、せめて簡単な英会話には身につけたいと痛感した5日間であった。

日台比較から探る 教育と国民性

早稲田大学本庄高等学院 3年 舟山 恭平



国立台湾博物館にて

日台の国民性の差異について考える

研修旅行の2日目には、台湾屈指の名門校である台中第一高級中等学校を訪問し、授業見学やキャンパスツアーを行った。広大な校舎には充実した設備が整っており、大きな陸上トラックやバレーボールコートで生徒たちが活発に運動している姿が見受けられた。16時頃の放課後には、校外のタピオカ店や火鍋店、夜市へと足を運び、現地の生徒たちと親睦を深めた。交流した生徒の中には日本の大学への進学を志望し、

流暢な日本語を話す者もあり、台湾の人々の親日的な温かさを肌で感じる事ができた。

同日の夜から翌朝にかけては、同校の生徒の家庭でホームステイを体験し、以前から気になっていた台湾人から見た日本人の国民性について尋ねてみた。このテーマに関心を持ったのは、私自身が日々の生活の中で、自分の思考や性格が比較的グローバルな価値観に近いのではないかと感じていたためである。

私の考える一般的な日本人像は「保守的で気が利く」というものだったが、ホームステイ先の生徒からの見解は「保守的で慎重、そして忍耐強い」というものであった。保守的で慎重という点は頷ける一方で、「忍耐強い」というイメージは私には意外であった。むしろ最近の日本の傾向としては、見切りをつけるのが早いケースが多いと感じていたからだ。今後の活動においては、他者から見た日本人の強みである「忍耐強さ」という側面も意識して行動していきたい。

台湾の教育について

4日目は、台湾の教育部へ表敬訪問を行った。私は高校の卒業論文で「若者雇用と企業業績の関係性」をテーマに研究しており、企業が教育機関や学生に求める資質につい

て考察を深めてきた。現在の日本では、大学が「就職予備校」と称されることもあり、社会に出るための最後の助走期間として捉えられることが多い。論文執筆の過程でも、日本の企業は新卒学生に対して即戦力としてのスキルよりも、入社後の「ポテンシャル」を重視する傾向が強いことがわかっていった。



歴史ある龍山寺にておみくじを引いた

一方で、台湾は世界トップレベルの大学進学率を誇り、学歴が社会的な評価に直結しやすい環境が前提としてある。そこで教育部の

訪問時、台湾では大学教育の役割をどのように捉え、学生に何を求めているのかを質問した。その回答は、「大学では学生のニーズに合わせたオーダーメイドの教育を提供し、卒業後すぐに活躍できる即戦力となる人材を育成している」というものであった。これは、ポテンシャル採用を主軸とする日本とは対照的なアプローチである。このように、自身が研究してきたテーマについて、現地に足を運ぶことで他国との明確な差異を浮き彫りにできたことは、海外研修ならではの醍醐味であった。今後も、日本と外国との比較を通じて教育や雇用のあり方について探求を続けていきたい。



中華楼で頂いたうさぎもち



ホームステイ先の朝ごはん



松山空港で帰国前に記念写真



作文部門
大賞

時を越えて繋がる、私と台湾

京都大学大学院 修士1年 中野 妃那

私にとって台湾は、単なる隣国でも、流行の観光地でもなかった。それは、私のルーツの一端が深く根を下ろしている「特別な場所」である。そう確信させたのは、曾祖母が国際スコーレ協会の体験記『私たちの戦中・戦後』に遺した、手記だった。

曾祖母は、かつて台湾で二十年余りの年月を過ごした。手記には、当時の活気ある暮らしだけでなく、戦時中の凄惨な状況が克明に記されていた。特に私の胸を締め付けたのは、終戦直後の長男出産の記述である。逆巻く空襲の炎、押し寄せる死の恐怖。そんな極限状態の中、曾祖母はお腹に新しい命を宿しながら、必死に日々を耐え抜いていた。

「生まれ故郷に変わりのない」手記の中でそう断言する曾祖母の言葉に、私は言葉を失った。壮絶な思いをして過ごした場所であるはずなのに、なぜ彼女はこれほどまでに台湾を愛し続けたのか。二十歳を過ぎた私にとって、それは大きな謎であり、同時にどうしても解き明かしたい大切な問いとなった。

平和な現代に生きる私が、昨年の旅行で訪れた台湾の地を踏んだ時、目に映る景色はどれも輝いて見えた。しかし、賑わう台北の街角を歩きながら、私はふと立ち止まらずにはいられなかった。今、私が踏み締めているこの地面のどこかに、かつて身籠った体で空襲から逃げ惑った曾祖母の足跡がある。そして、その命が繋がったからこそ、今の私がここに立っている。

曾祖母が愛し、そして私へと命を繋いでくれたこの島。その歴史の深層に触れることが、私に課せられた使命ではないか。そう感じた瞬間、私の中で台湾は「遠い異国」から「自分の物語の部へと変わったのである。

体験記の中で、私の心に最も深く、そして温かく刻まれている場面がある。それは終戦後、慣れ親しんだ台湾を離れる「引き揚げ」の日の光景だ。台北から基隆港へと向かう引揚列車。住み慣れた家を離れ、着の身着のまま日本へ向かう人々を乗せたその列車に向かって、台湾の現地住民が叫んだ言葉。

「また来いよっ」

その一言だった。本来ならば、統治が終わる開放感や日本人に対する複雑な感情があってもおかしくない場面である。しかし、そこには確かに、個人と個人が築いてきた深い情愛があった。きつと、曾祖母や日本人家族を見送りに来た、仲の良かった台湾の友人たちだったのだろう。曾祖母はこの光景を見て「胸の内が熱くなった」と記している。戦時中という過酷な時代、誰もが自分のことで精一杯だったはずの状況で放たれた言葉は、絶望の淵にいた曾祖母にとって、どれほどの救いになったことが。

この「また来いよっ」という言葉に導かれるように、私は昨年の卒業旅行で台湾を訪れた。十份でランタンを飛ばした際、夕闇に吸い込まれていく光を見上げながら、私は曾祖母が耐え抜いた「空襲の空」と、今自分が見上げている「平和な空」を重ね合わせていた。ランタンに書いた「平和」の文字。それは自分一人の幸せを願うものではなく、八十年前の台湾の人々が曾祖母に示してくれたような、国境を超えた慈しみが世界

中に広がってほしいという折りでもあった。

これまでの旅を通じて、私は台湾の人々の優しさを感じてきた。しかし、それはどこか「訪れる者」と「迎える者」という、平穏な距離を保った関係のようにも思える。曾祖母の体験記を読み、彼女が命がけでこの地と向き合っていたことを知った今、私はただの旅行者のままでいることに物足りなさを感じるようになった。私が次に台湾を訪れるなら、それは観光地を巡るためではなく、そこに生きる人々の「声」を直接受け取るためでありたい。

私が最も切望しているのは、現地の同世代の若者、そして歴史を知る人々との直接的な対話だ。曾祖母が耳にした「また来いよっ」という言葉の裏側には、当時の台湾の方々のどのような葛藤や情愛があったのか。そして、その歴史は今の台湾の若者たちにどのように語り継がれ、彼らは日本という国をどのような眼差しで見つめているのか。これらは教科書やインターネットで調べれば、ある

程度の正解に辿り着ける問いかもしれない。しかし、文字で読む知識と、相手の表情を見ながら交わす言葉とでは、その温度が決定的に違う。

今の日本で暮らす私たちの世代にとって、台湾との良好な関係は「当たり前」のものとして享受されている。しかし、その土台には、曾祖母たちの世代が築いた交流の積み重ねがあるはずだ。その歴史を知る世代が少なくなっていく中で、今、私たちが直接言葉を交わすことには、意味があり意義があると感じている。

「自分の言葉で話し、相手の言葉をお聴く」。このシンプルな行為こそが、相互理解の唯一の入り口だ。私は、曾祖母が愛したこの国の国民性や、彼らが大切にしている価値観を、直接対話を通じて自分の肌で感じた。それは、かつての私の家族を温かく見送ってくれた台湾への、私なりの誠実な向き合い方でもあるのだ。



作文部門
優秀賞

30年の時を超えて

〜17歳のわたしが想いを馳せる台湾〜

法政大学第二高等学校 2年 石原 歩佳

「津駅はどこですか」

ある雨の夜、17歳だった高校生の母はリュックを背負い少し着古した格好のおじさんから、その声をかけられた。おじさんは傘も持ってい

おじさんは、ほんと救われたような表情で、「ありがと」と答えたという。

なかつたようだ。母は田舎の単線電車で通学しており、津駅の隣の無人駅を利用して、いつも祖母に車で迎

津駅まで車で15分。車内でおじさんは、台湾から観光で来ており、家族と津駅で待ち合わせをしていること、だから急いでいたことを教えてくれた。たどたどしい日本語では

う次の電車は1時間後。母は津駅までの行き方と次の発車時刻を説明し、祖母の車に乗り込んだ。しかしその直後、おじさんは雨の中、津駅の方向へ歩き出したという。その駅に

あつたが、そのとき母は初めて、彼が外国人だと気づいたそう。おじさんは、自分や家族のこと、日本が好きで各地を訪れていること、そして感謝の気持ちを、一生懸命な日本語で伝えてくれた。母は、こんな何もない田舎町に観光で来る人があるのかと、新鮮に感じたそう。別れ際、お

じさんから「名前と住所を覚えてほしい」と頼まれ、住所を交換して別れた。それから約1か月後、台湾からお礼の品と感謝の手紙が届いた。そこから年に数回、手紙のやりとりが続いたという。

この話をわたしが聞いたのは、2年前、母の「実家じまい」を手伝ったときだ。写真と、日本語で書かれたたくさんのお手紙が出てきて、母は懐かしそうに語ってくれた。18歳で上京し

た母は、忙しさの中で返事を書けなくなつたが、祖母がやりとりを続けていた。わたしが生まれる前に亡くなつた曾祖母は、戦時中、台湾に住んでいた。祖母にとつても、その縁は特別だつたのだと思う。写真には、曾祖母と祖父、そしておじさん夫婦が写つていた。祖父が曾祖母を台湾へ連れて行き、おじさん夫婦と再会したときの一枚だつた。当時は電話番号も交換しておらず、海外とのメールや携帯電話もまだ主流ではなかつた。台湾でどうやって待ち合わせをしたのだろう。曾祖母も祖母もすでに亡くなり、母もわたしも、当時の台湾の話を直接聞くことは叶わな

母は、一緒に会いに行けばよかったなと少し後悔しながら、おじさんはきつとも亡くなつてい

た母は、忙しさの中で返事を書けなくなつたが、祖母がやりとりを続けていた。わたしが生まれる前に亡くなつた曾祖母は、戦時中、台湾に住んでいた。祖母にとつても、その縁は特別だつたのだと思う。写真には、曾祖母と祖父、そしておじさん夫婦が写つていた。祖父が曾祖母を台湾へ連れて行き、おじさん夫婦と再会したときの一枚だつた。当時は電話番号も交換しておらず、海外とのメールや携帯電話もまだ主流ではなかつた。台湾でどうやって待ち合わせをしたのだろう。曾祖母も祖母もすでに亡くなり、母もわたしも、当時の台湾の話を直接聞くことは叶わな

高校入学後、SNSのアカウントを作つたわたしは、自然と台湾の紹介動画を見るようになった。ランタンに憧れ、東京で開催されたスカイランタンのイベントにも母と二度足を運んだ。

母は「異文化交流なんて大げさなものじゃないよ」と言うが、メールも携帯電話も主流でなかつた時代に、ペンと気持ちだけで台湾とつながっていたことは、とても尊い。

東京に住むわたしはまだ、そこまで深く異文化とつながる体験はしていない。行動しなければ、何が縁につながるかはわからない。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。

挑戦の年、17歳。
わたしは、わたしを超えていく。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。

母の残した後悔を胸に、自分の足で一歩踏み出し、異文化の中に飛び込み、新しい価値観や景色と出会うたい。





作文部門
優秀賞

絵本からひろげる平和への願い

江戸川学園取手中学校 3年 塚原 佳那子

私は小さい頃、絵本が大好きだった。母は私が眠るまで毎晩絵本を読んでも読んでいた。私はまだ文字が読めなかったけれど、一人で絵本の絵を見ることも好きだった。そんな私が大好きだった絵本の中に、『地下鉄』という本があった。おもちゃ箱の中身のような楽しくて不思議な絵が大好きで、私は毎日飽きずに眺めていた。小さな私に母は、この絵本は台湾のジミー・リャオという人が書いた本だと教えてくれた。母が学生の頃、同じ研究室に台湾からの留学生がいたそうだった。その留学生は日本が大好きで、日本語もとても上手だったらしい。休日には友達みんなで彼女の家で餃子パーティーをしたり、卒業式には母が着物を着せてあげたりもしたそうだった。母と彼女は今でも仲が良く、メールのやり取りをしている。そんな彼女が台湾に帰る時に母にプレゼントしてくれたのがその本だった。『地下鉄』の主人公は15歳の盲目の少女だったが、当時の私は絵を楽しむだけで、本の内容までは理解することはできなかった。

去年の夏休みに、私は図書館でジミー・リャオの絵本を見つけた。なつかしくなつて手に取ったそれは、『おなじ月をみて』という絵本だった。けがをした動物の手当てをしてあげる優しい男の子の話なんだ、と思って読み始めた私は、けがをして帰ってきたお父さんと爆弾を落とす爆撃機の絵に衝撃を受けた。彼はなぜ子ども向けの絵本にこのような内容を書いたのだろうか。疑問に思った私はジミー・リャオや台湾について調べてみた。そして、台湾と中国の難しい関係を知ることになった。

台湾には徴兵制がある。男性は18歳以上で1年間の兵役につく義務がある。今現在、実際に戦争が起きているわけではないが、本当に戦争が始まったら、この少年のお父さんのようにけがをしたり脚を失ったりすることもあるだろう。それどころか、多くの命が失われるに違いない。ジミー・リャオは、そんなことが起こらないように、平和であるように、という願いを込めてこの絵本を書いたのではないかと私は思う。ジミー・リャオは30代で白血病にかかり、3年間自宅療養をしている。そんな彼は誰よりも命の大切さを感じていたと思うからだ。

ジミー・リャオの出身地である宜蘭は、日本統治時代、西郷隆盛の息子の菊次郎が庁長(県知事)を務めていた日本とゆかりのある地域だ。菊次郎は台湾の人たちと協力して宜蘭川に堤防を作り、洪水から人々を守ったことで知られている。菊次郎は台湾に渡るより前に西南戦争で、『おなじ月をみて』のお父さんと同じように脚を失っている。これははたして偶然なのだろうか。日本による台湾の統治は、日清戦争後から第二次世界大戦が終わるまで50年間続いた。日本統治時代は、台湾に日本の技術や文化が伝えられたという良い面もあったが、台湾の人たちの言葉や固有の文化が抑圧されるなどの負の面もあった。自分を含めて今の若い人たちは、台湾の日本統治時代をほとんど知らない。私たちが日本人は戦争の産物である日本統治時代についてもっと知るべきだと思う。

私は今15歳、『地下鉄』の主人公の少女と同じ年齢になった。今読み返すと、前は気がつかなかったいろいろなことが見えてくる。目の見えない少女にとって、世界は「出口の見えない迷路」だった。そんな中、彼女は地下鉄に乗って、勇気を出して外の世界へ希望を探しに出かけた。私はこの少女のように目が見えないわけではない。しかし私には本当に大切なものが見えていないだろうか。この絵本には地下鉄に乗っている星の王子さまも描かれている。私は「本当に大切なものは目には見えないんだよ」という、『星の王子さま』のキツネの言葉を思い出した。思いやりや愛、友情、信頼、平和など、それらは目で見ることができない、しかしとても大切なものなのだ。

【参考にした本】
ジミー・リャオ 『地下鉄』(2002年)
ジミー・リャオ 『おなじ月をみて』(2018年)



作文部門
優秀賞

知らなかった台湾 知りたい台湾

「KANO」が教えてくれたこと

愛媛大学教育学部附属中学校 2年 弘松 詩菜

私の家の近くに松山商業高校のグラウンドがある。放課後になると、野球部の声が聞こえてくる。同じマシオンには松商野球部の生徒が住んでいて毎晩、エントランスの前で素振りをしている。甲子園を目指して練習しているのだろう。

近所にあるこのグラウンドが、海を越えた台湾と深い縁で結ばれていることを私は知らなかった。毎晩素振りをする彼も、もしかしたら知らないかもしれない。自分が通う松山商業が、約百年前、台湾・嘉義の人々に希望を与えた物語と繋がっていることを。

私は母に誘われて訪れたミュージカル「KANO」でその物語を知った。そこで放たれた「生まれてきてよかった」という台詞が、私の心に今も深く突き刺さっている。

私は生まれてきてよかったと心の底から思ったことがあるだろうか。

周囲と自分を比べ、何をやっても

上手くいかないような気がして「自分には価値があるのか」そんな気持ちに押し潰されそうになっていた私は、舞台上の彼らが叫ぶその言葉に衝撃を受けた。

物語の舞台は1931年の台湾。

当時の台湾は日本の統治下にあり、公用語は日本語だった。しかし台湾は多民族社会で、先住民や漢民族の使う言語はそれぞれ異なり、家族観や信仰も違う。嘉義農林学校の野球部には、日本人、漢民族、先住民の生徒たちがいた。

台詞には「二等国民」「日本人は嘘つき」という言葉もあった。今でも差別や偏見は絶えない。でもこの作品はその問題にも向き合っていた。きれいごとだけではない歴史の現実に触れ、それを乗り越えようとする姿に、私は最も魅力を感じた。国籍や民族、生まれた環境という、個人の努力ではどうしようもない理不尽な「壁」。今の私たちが抱える生きづらさにもどこか少し重なるところがあるように感じた。

松山出身の近藤兵太郎監督のもと、部員たちは野球を通して、その壁を乗り越えていく。言葉や文化が違っても、生まれる友情。甲子園準優勝という奇跡を成し遂げ「生まれてきてよかった」と自分を肯定できるようになっていく姿に、とても感動した。

さらに驚いたのは、この舞台のキャストが、日本人、漢民族、先住民という三民族のルーツを持つ人々で構成されていたことだ。百年前の物語を、今、異なる背景を持つ人々が作り上げている。台湾の多様性が今も息づいていることを強く感じた。この物語が単なる過去の美談ではなく、今も台湾に生き続ける多様性と共生の象徴なのだを教えてくれた。

ミュージカルを観て、私は「台湾」という国を調べてみた。松山市が台北市と友好交流都市であること、そしてKANOの舞台である嘉義市とは歴史的に深い縁があること。しかし、学校で習う姉妹都市の中に「台湾」の文字はなく、周囲の友人も嘉

義市との絆を知らない。

ふと思った。これほど大切な縁を私が知らなかったように、嘉義の若い人にとっても、今となつては松山市は知らない遠い場所になっているのだろうか。あの日、嘉義の人々に生きる勇気を与えた絆が、時間の中に埋もれていつてののだろうか。

ネット上には「〇〇人だから」という偏見や差別的な言葉が溢れている。でも、その根底にあるのは「知らない」ということではないだろうか。知らないから、想像できない。想像できないから、決めつけてしまう。

今、グローバル社会と言われているが、私の知る世界はまだ、スマホの画面の中にある情報だ。実際に体験したり、自分の目や肌で感じる機会はまだない。

だからこそ、私は嘉義を訪れてみたい。KANOの球児たちが汗を流した場所に立ってみたい。今の嘉義に生きる同世代の人たちと、直接言

葉を交わしてみたい。

そしてそこで知ったことを、そこで感じたことを、松山の同世代に伝えたい。毎晩素振りをする野球部の彼にも伝えたい。私たちの街と台湾は、こんなに温かい絆で結ばれている。

「知らない」とは偏見の始まりだと思ふ。そして「知ろうとする」ことが歩み寄りの一歩になるはずだ。百年前、野球が国境を越えて人々を繋いだように、私も新しい世代の「架け橋」になれるだろうか。その道のりのどこかで、私もいつか「生まれてきてよかった」と心から思える瞬間を見つきたい。



受賞作品

— 大賞・優秀賞 —

旅程表

ツアープラン:期間 令和8年3月25日～29日

1日目

17:00	台湾紅茶の故郷・茶業改良場・魚池分場 発
	タクシーで宮原眼科へ。
18:30	宮原眼科 着 夕食。宮原眼科2階で。お土産も購入。
21:00	宮原眼科 発 タクシーで高鉄台中駅へ。
21:25	高鉄台中駅 着 ロッカーから荷物取り出す。
21:39	高鉄台中駅 発 台湾新幹線で高鉄台北駅へ。
22:29	高鉄台北駅 着 徒歩でホテルへ。
	ホテルは台北駅近く。2泊。
22:45	ホテル 着 チェックイン。
24:00	就寝

4日目

6:30	起床
7:00	朝食
7:45	ホテル 発 徒歩とMRTで華山文化産業園區へ。
8:00	華山1914文化创意産業園區 着
	日本統治時代の醸造所跡で歴史を感じる。
8:45	華山1914文化创意産業園區 発 徒歩とMRTで移動。
9:30	国立台湾大学 着
	校史館で旧台北帝国大学の歴史を学ぶ。
	磯小屋にて、磯永吉と末永仁の研究について学ぶ。
	台湾大学グッズをお土産に。昼食は学食で。
12:30	国立台湾大学 発 タクシーで国家鉄道博物館へ。
12:50	国家鉄道博物館 着
14:30	国家鉄道博物館 発 徒歩とMRTで北門駅へ
15:00	国立台湾博物館(鉄道部パーク) 着
	鉄道の発展とともに農業や林業の発展した歴史を学ぶ。
17:00	国立台湾博物館(鉄道部パーク) 発 徒歩で移動。
17:20	打狗廟西門店 着 夕食。
18:30	打狗廟西門店 発 徒歩とMRTで中山駅へ。
18:45	森高砂珈琲館中山店 着 台湾産コーヒーを嗜む。
19:30	森高砂珈琲館中山店 発
	新光三越などでショッピングしながら移動。
21:00	中山駅 発 徒歩とMRTで士林夜市へ。
21:15	士林夜市 着 とにかく楽しむ。
22:45	士林夜市 発 徒歩とMRTで寧夏夜市へ。
23:10	寧夏夜市 着 とにかく食べる。歩いてホテルへ。
24:20	ホテル 着
25:00	就寝

5日目

6:00	起床
6:30	朝食
7:15	ホテル 発 大きな荷物はフロントに預ける。
	チェックアウト。MRTで雙連駅へ。
7:30	雙連駅 着 雙連朝市を散策。
8:10	雙連駅 発 MRTと徒歩で松山文創園區へ。
9:00	松山文創園區 着
	日本統治時代のタバコ工場跡で歴史を感じる。
9:45	松山文創園區 発 MRTと徒歩で行天宮駅へ。
10:20	行天宮駅 着 古い横丁へ。手相占いをお願いする。
11:20	行天宮駅 発 MRTと徒歩で特有種商行へ。
11:40	特有種商行電影珈琲館 着 昼食。
	「KANO」グッズを自分用のお土産に。
13:30	特有種商行電影珈琲館 発 MRTと徒歩でホテルへ。
13:50	ホテル 着 大きな荷物を受け取る。
14:00	ホテル 発 タクシーで松山空港へ。
14:20	台北松山空港 着 お土産買い足す。
	出国審査後に牛肉麵を食べる。
16:25※	台北(松山) 発
20:20※	羽田空港 着

※ 航空機の便の時間は固定となります。

10:25※	羽田空港 発
13:25※	台北(松山) 着 MRTで台北駅へ。
15:30	台北駅 着 大きな荷物をコインロッカーに預ける。
	徒歩で国立台湾博物館へ。
15:50	国立台湾博物館 着
	児玉源太郎と後藤新平の像にご挨拶。お土産も購入。
17:00	国立台湾博物館 発
	徒歩で台北駅に戻る。荷物取り出す。
17:31	高鉄台北駅 発
	台湾新幹線で左營駅へ。駅弁で小腹を満たす。
19:05	高鉄左營駅 着
	MRTと徒歩でホテルへ。チェックイン。
	ホテルは、高雄駅周辺。2泊。
19:50	ホテル 発 タクシーで夕食へ。「新台湾原味」で夕食。
	夕食後は、高雄六合夜市へ。タクシーでホテルに戻る。
23:00	ホテル 着
24:00	就寝

2日目

7:00	起床
7:20	朝食
8:15	ホテル 発 徒歩で台鉄高雄駅へ。
8:29	台鉄高雄駅 発
9:06	台鉄潮州駅 着 タクシーで二峰圳へ。
9:40	二峰圳 着 現役の地下ダムを見学する。
10:20	二峰圳 発 タクシーで林後四林平地森林園區へ。
10:35	林後四林平地森林園區 着 鳥居信平の像を見学。
11:00	林後四林平地森林園區 発 タクシーで潮州駅へ。
11:20	台鉄潮州駅 着
11:24	台鉄潮州駅 発 台鉄とMRTで西子灣駅へ
12:42	西子灣駅 着 徒歩で「順和排骨飯」へ。昼食。
13:19	西子灣駅 発 徒歩とMRTで台湾糖業博物館へ。
14:28	台湾糖業博物館 着 新渡戸稲造の功績を学ぶ。
16:00	台湾糖業博物館 発 MRTと徒歩で哈瑪星台湾鉄道館へ。
17:10	哈瑪星台湾鉄道館 着 鉄道好きには最高。
18:00	哈瑪星台湾鉄道館 発
	徒歩とLRTでSKB文明鋼筆股份有限公司へ。
18:20	SKB文明鋼筆股份有限公司 着 お土産に筆記用具。
19:00	SKB文明鋼筆股份有限公司 発
	LRTでMLD台鋁生活商場へ。
19:30	MLD台鋁生活商場 着 夕食。
	日本統治時代のアルミニウム工場跡で歴史を感じる。
21:30	MLD台鋁生活商場 発 徒歩とMRTでホテルへ。
22:00	高雄駅 着
22:10	ホテル 着
23:00	就寝

3日目

6:00	起床
6:30	朝食
7:10	ホテル 発 チェックアウト。徒歩とMRTで左營駅へ。
7:40	左營駅 着
8:00	高鉄左營駅 発 台湾新幹線で高鉄台南駅へ。
8:12	高鉄台南駅 着 タクシーで八田與一記念館へ。
9:00	八田與一記念館 着
	八田與一の功績を学ぶ。八田與一銅像も参拝。
	八田與一記念公園へ移動。
11:15	八田與一記念公園 発 タクシーで国立嘉義大学へ。
12:00	国立嘉義大学 着
	昼食。嘉義農林高校の史料を見学。
	「KANO」グッズをお土産に購入。
13:20	国立嘉義大学 発 タクシーで高鉄嘉義駅へ。
	車窓から、中央噴水池の呉明捷投手の像を見学。
14:00	高鉄嘉義駅 着
14:08	高鉄嘉義駅 発 台湾新幹線で高鉄台中駅へ。
14:30	高鉄台中駅 着 タクシーで日月潭へ。
15:50	台湾紅茶の故郷・茶業改良場・魚池分場 着
	新井耕吉郎の記念碑を見学。遊歩道散策。
	可能ならば、史料館も見学したい。予約必要？



ツアー
プラン部門
大賞

令和の米騒動。台湾の農業発展に
貢献した日本人を学ぶ縦断旅。

福島県立福島高等学校 1年 長南 晴矢



X



ツアー部門
大賞

令和の米騒動。台湾の農業発展に
貢献した日本人を学ぶ縦断旅。

福島県立福島高校 1年 長南 晴矢

私が台湾に興味を持ったきっかけは、『KANO〜1931海の向こうの甲子園〜』という映画に出合ったことです。

令和7年3月、私は初めての台湾に旅行に行きました。KANOの聖地巡礼ができてとても幸せになり、台湾をとっても大好きになりました。

令和7年、日本国内ではコメの値段が高騰し、『令和の米騒動』と表現する人たちもいました。

一般家庭ではコメが買えない状況が続き、各地の小学校や中学校の給食ではコメからパンに切り替えられる状況になっていました。

そのような状況下で、素晴らしいニュースが届きました。（「古古古米」のニュースではありません）

【台湾から友情のお米10トン・山口の学校給食へ「深い絆を若い世代につな

げたい』というニュースでした。

東日本大震災の時と同じように、日本が困難に直面すると、真っ先に支援してくださる台湾のみなさんに大変感謝しました。

また一方で、『台湾と日本は同じコメなの？』『タイ米はちよつと違う感じがするけど？』などと疑問に感じ、調べました。

すると、磯永吉や末永仁の研究と改良のおかげで、台湾でもジャポニカ米栽培が可能になったことが分かりました。

さらには、映画『KANO』にも登場する八田與一以外にも、台湾の農業発展に貢献した日本人がたくさんいることがわかりました。

この5日間のツアープランでは、台湾の農業の発展に貢献した日本人に注目したツアープランになっています。この5日間、

(1) 児玉源太郎 山口県出身。第4代台湾総督。後藤新平を初代民政長官として登用し、台湾開発に努めた。

(2) 後藤新平 岩手県出身。児玉源太郎に抜擢された初代民政長官。新渡戸稲造を招聘。阿里山森林鉄道の開通のために河合鉢太郎も招聘。

(3) 鳥居信平 静岡県出身。四高では八田與一の3年先輩。二峰圳などの地下ダム工事を指揮し、台湾南部一帯でサトウキビの生産を高めた。

(4) 新渡戸稲造 岩手県出身。後藤新平の懇請により台湾に招かれる。台湾総督府の技師としてサトウキビの栽培改良や製糖工業育成に努めた。

(5) 八田與一 石川県出身。烏山頭ダムと嘉南大圳によつて、嘉南平野一帯に水路をはりめぐらせた。桃園大圳の工事にも成功させている。

(6) 新井耕吉郎 群馬県出身。「台湾紅茶の父」。紅茶の栽培に尽力。紅茶の研究・普及活動で台湾紅茶産業の発展に大きく貢献した。

(7) 磯永吉 広島県出身。「蓬莱米の父」。末永仁とともに台湾米の品種改良に取り組んだ。台湾平地でのジャポニカ米の栽培が可能に。

(8) 末永仁 福岡県出身。「蓬莱米の母」。磯永吉とともに蓬莱米の普及に尽力。「若苗法」により収量は倍に。農民の生活を豊かに。

以上8人の偉大な日本人について学ぶことができません。台湾ではとても尊敬されて愛されている8人の日本人ですが、どういう理由なのか（政治的な理由？）、日本ではあまり知られていない人もいます。とても残念です。スケジュールの関係で、残念ながら加えることができなかった日本人もま

だまだいます。正しく歴史を学ぶことで、日本と台湾の友好の関係を、これからもつないでいける大人になりたいと思います。

【参考にした資料】

- ・映画『KANO〜1931海の向こうの甲子園〜』。2014年。
- ・映画『バツテンライ!! 〜南の島の水ものがたり〜』。2008年。
- ・『台湾教育マニュアル』 発行 台湾観光局／台湾観光協会。2022年。
- ・「なつかしい日本をさがし台湾」おがたちえ 著、ぶんか社。2014年。
- ・『小学館版学習まんが 八田與一』 監修 許光輝、まんが みやぞえ郁雄、シナリオ 平良隆久、小学館。2011年。
- ・「福島成蹊高等学校 2024年台湾研修旅行のしおり」＋「福島成蹊高等学校 2025年台湾研修旅行のしおり」。
- ・「どこまでも楽しい台湾ライフ 悠遊台湾 台湾・台北生活情報誌 2024-2025」片倉真理・片倉佳史 著、高砂電子出版。2024年。
- ・『台湾探見 Discover Taiwan ― ちょっぴりディープに台湾(フォルモサ)体験』片倉真理 著、片倉佳史 写真、ウェッジ。2018年。
- ・『散歩の達人 台湾さんぽ』 著者 奥谷道卓、交通新聞社。2019年。
- ・『MRTと鉄道に乗って週末台湾旅』 文 山田やすよ、写真 ミヤジシンゴ、エクスナレッジ。2019年。 他多数。

受賞作品

— 大賞・優秀賞 —



ツアー
プラン部門
優秀賞

台湾で学ぶテクノロジーのかたち

価値の源泉を訪ねて

灘高等学校 1年 野寺 悠太

旅程表

ツアープラン:期間 令和8年3月25日～29日

1日目

12:00	台南サイエンスパーク内を散策
	・パーク内の 土地利用 に注目(工場、農地、生態湖)
12:20	国立台湾史前文化博物館南科考古館に移動
	・“開発”と“文化の保存”の 共存 を見る
13:00	南科考古館 発 (シャトルバスで南科駅、TRAに乗り)
15:50	清水駅 着 (タクシー乗車 30分)
16:05	高美湿地 着 (棧橋を渡って沖へ)
	・湿地の生態系を観察する
16:50	高美湿地ビジターセンターへ (16:40頃に棧橋が閉鎖)
	・高美湿地の生態とその保全について知識を得る
17:30	木道入り口付近の[堤防]へ移動
18:10	日の入り際の 風車 と 湿地 が作り出す絶景を見る
18:40	高美湿地 近くの ホテル 着
	・夕食はホテルで食べる

4日目

7:00	起床
7:30	ホテルで朝食をとる
8:30	ホテル出発 (タクシーで30分)
9:00	自転車文化探索館 着
	・世界的自動車ブランド GIANT について知る
10:00	自転車文化探索館 発 (タクシーで20分)
10:20	高铁 台中駅 着 (台湾高铁鉄道 乗車30分)
10:50	高铁 新竹駅 着 (バス30分、徒歩5分)
11:25	ITRI 新竹工業技術研究院 着
	・台湾のイノベーションの 原点 を知る
12:00	大学内の食堂で研究者の人たちと話しながら 昼ご飯
12:30	ITRI 新竹工業技術研究院 発 (バス10分、徒歩20分)
	・車窓から新竹サイエンスパークの 規模 を感じる
13:00	台積創新館 (TSMC) 着
	・あらゆる電子機器の中にある 半導体 について知る
	・半導体の 未来 について考える
14:10	台積創新館 発 (徒歩10分、バス10分、TRA15分)
14:45	高铁 新竹駅 着 (台湾高铁25分、MRT20分、徒歩20分)
16:00	鴻海精密工業 本社 着
	・ 3+3戦略 の話聞く
17:00	鴻海精密工業 本社 発 (徒歩20分、MRT40分)
18:00	市政府駅 着
18:10	台北のスマートシティを見学しながら、101へ
	・バス停の“ 電子ペーパー ”化、 スマートボール など
	・ Gogoro の給電ステーション、 YouBike の設置場所も
18:40	台北101 着
19:10	鼎泰豊で夕食を食べる
19:40	台北101の展望台へ
	・途中で 超高速 エレベーターや ダンパー を見学
20:10	展望台 着
	・台北の夜景を眺めながら4日間を振り返る
20:40	台北101 発
21:10	近くの ホテル 着

5日目

6:30	起床
7:00	ホテルで朝食をとる
8:10	ホテル出発 (徒歩10分)
	・途中で 陶朱隠園 を見学し、都市の 未来 を考える
8:20	7-ELEVEN X-STORE 2号店 着
	・ハイテクな店内で 未来 のコンビニについて考える
	・昼ご飯もここで買っておく
8:40	7-ELEVEN X-STORE 2号店 発 (バス乗車20分)
9:00	Taiwan Tech Arena 着
	・オフィスを見学し、未来の 技術的革新 を予感する
10:30	Taiwan Tech Arena 発 (バス乗車20分)
10:50	台湾社会創新実験中心 着
	・社会を アップデート する、技術の最前線を見る
	・実際にその場にいる人たちの話を聞く
12:20	見学終了 コンビニで買った昼食を食べる
12:40	台湾社会創新実験中心 発 (徒歩15分、MRT乗車5分)
13:00	日本台湾交流協会 台北事務所 着
	・台湾と日本の技術面での 連携 について話を聞く
	・日台の 文化の違い について再度聞き、 日本での技術の在り方 について考える
	★これまでの5日間の学びを 自分事 にする時間
14:30	日本台湾交流協会 発 (徒歩10分、MRT乗車5分)
14:45	台北松山空港 着
16:25※	台北(松山)発
20:20※	羽田空港着

※ 航空機の便の時間は固定となります。

10:25※	羽田空港発
13:25※	台北(松山) 着
	(MRT乗車30分、徒歩5分)
14:05	台北駅近くの ホテル にチェックイン
	荷物を預けて出発。(徒歩10分)
14:15	台湾国立博物館(本館) 着
	・台湾の自然や人々の歴史・文化について学ぶ。
	・ 日本人 の学術面での台湾における貢献を学ぶ。
15:40	台湾国立博物館(本館) 発
	すぐ近くのスターバックス(星巴克)へ (徒歩5分)
15:45	スターバックス(重慶店)で休憩
	・スターバックスの 台湾限定 メニューを楽しむ
16:10	タクシーで龍山寺へ (窓から総統府、司法院を眺める)
16:25	龍山寺 着
	・台湾式おみくじに挑戦!
17:35	龍山寺 発 (MRT乗車15分、徒歩15分)
18:05	寧夏夜市 着
	・美食が集まる夜市で食べ歩き
	・先に夕食を食べて、後半は見学
19:15	寧夏夜市 発 (バス乗車5分、徒歩5分)
19:25	台北駅近くの ホテル 着

2日目

7:00	起床
7:30	ホテルで朝食をとる
9:00	ホテル出発 (MRT乗車10分、徒歩20分)
9:30	国家鉄道博物館 着
	・鉄道工場の面影が残る“ 職員浴場 ”の雰囲気に入る
	・台湾の人々が愛した車両と対面する
10:30	国家鉄道博物館 発 (バス乗車20分、徒歩10分)
11:00	台北駅 着 (台湾高速鉄道乗車30分)
11:30	台湾高铁探索館 着 (高铁 桃園駅のすぐ近く)
	・台湾高铁のルーツについて学ぶ
12:30	台湾高铁探索館 発
	高铁 桃園駅に移動し、台湾の 駅弁 を購入
13:00	台湾高速鉄道 乗車
	・日本の新幹線と台湾高铁の相違点を体感する
	・外観の デザイン 、 大型荷物スペース などに注目
	・桃園駅で購入した駅弁を食べる
14:40	高铁 左営駅で乗り換え → 高雄MRTへ (乗車40分)
15:20	旧打狗駅故事館 着
	・時が止まった駅舎で昔の高雄にタイムスリップ
16:00	旧打狗駅故事館 発 徒歩で駁二大義駅周辺へ (20分)
16:20	高雄LRTとアート地区のコラボを楽しむ
	・ 架線が無いこと で生まれる 景観 の美しさを体感
16:50	駁二大義駅で高雄LRTに乗り (乗車20分)
	・乗車前に駅でLRTの 給電方法 を見学する
17:10	美術館駅で途中下車
	・トトロのトンネルを駆け抜けるトラムの写真を撮る
17:30	美術館駅で高雄LRTに再乗車 (LRT・MRT30分乗車)
18:00	高雄車站 着 (新旧の高雄車站を見比べる)
18:40	高雄駅近くで 夕食
19:30	美麗島駅に向けて出発 (徒歩15分)
19:45	美麗島駅 着 (光之穹頂の見学を行う)
	・20:00からの 光のショー を見学
20:20	美麗島駅近くの ホテル 着

3日目

6:00	起床
6:30	ホテルで朝食をとる
7:00	ホテル出発 (徒歩15分)
7:20	高雄駅 着 (台鉄 区間快車に乗り)
8:30	隆田駅 着 (ここでタクシーをチャーター)
9:00	烏山頭ダム 着
9:10	八田與一記念館を見学
	・八田與一の 台湾への貢献 を学ぶ
9:50	タクシーで八田與一記念公園へ
	・当時の八田與一の生活に思いを馳せる
10:20	タクシーで八田與一銅像へ移動
	・ダムを悠然と見据える八田與一と同じ景色を見る
10:30	ダムの周囲を散策
	・ダムの 大堰堤 、 旧放水口 、 機関車 を見学
11:00	烏山頭ダム 発 (タクシー乗車30分)
	・車窓から穀倉地帯を見て、ダムの偉大さを感じる
11:30	樹谷懐旧餐厅 着
	烏山頭ダム が育んだご飯を味わう



ツアー部門
優秀賞

台湾で学ぶテクノロジーのかたち

「価値の源泉を訪ねて」

灘高等学校 1年 野寺 悠太

「価値の消費者から、価値の生産者へ。」

私はこのキャッチフレーズを軸に、今回のスタディーツアーを計画しました。私たちは日常生活の中で、誰かが生み出した価値を、あまりにも当たり前のもので受けて取っています。しかし、その「当たり前」は決して自然に存在しているものではなく無数の試行錯誤や意思決定の積み重ねによって、初めて社会に届けられたものです。

昨年の夏、私は学校のプログラムの一環として Deep tech スタートアップを見学する合宿に参加しました。その中で、ある起業家の方が語った「起業家として歴史に名前を残したい」という言葉が、今も強く心に残っています。その言葉を聞いたとき、私は初めて技術やサー

ビスが単なる「完成品」ではなく社会に価値を残そうとする人間の意思の結晶であることに気づかされました。

それまで私は、技術や社会インフラを完成された形でしか見ていませんでした。しかし、その裏側には数えきれない挑戦と失敗、そして「それでもやる」と決断した瞬間が存在します。社会に価値を生み出すとは、既存の価値を消費することではなく、自分が信じた「面白い」を責任をもって社会に差し出す行為なのだ。この経験を通して実感しました。

この感動を自分一人の体験で終わらせたくない。価値を受け取る側にとどまるのではなく、価値を生み出す側に立つ面白さを多くの人に知ってほしい。そう思ったから、私はこのスタディーツアーを構想しました。

では、なぜ日本ではなく台湾なのか。その疑問を抱く人もいるかもしれませんが、しかし私にとって、台湾はこのテーマを考える上で極めて自然な場所です。台湾は日本と地理的・文化的に近い一方で、産業の発展の仕方や技術の社会実装のスピード、意思決定のあり方において、決定的な違いを持っています。

さらに、日本と台湾は技術を通じて深く結びついてきました。TSMC の熊本工場建設に象徴される半導体分野での協力や、台湾高速鉄道における日本の鉄道技術の導入など、両国は互いの強みを持ち寄りながら、新たな価値を共に生み出しています。台湾で技術を見ることは、他国の成功例を学ぶことではなく、日本の技術や社会のあり方を、別の角度から見つめ直

すことでもあります。この旅行プラン作りを通して私は、技術は単体で価値を持つものではなく、人や社会の中でどのように使われるかによってその意味が決まるのだという結論に至りました。そのため、技術が使われる場所の文化的・歴史的背景、そしてそこに生きる人々の価値観を理解することが、価値創造を考える上で不可欠であると考えています。

台湾という日本に近く、しかし異なる社会の中で技術を見つめることで参加者は「技術をどう作るか」だけでなく、「技術をどう社会に届けるべきか」を考える視点を得るはずです。

価値の消費者から、価値の生産者へ。
このスタディーツアーが、

人・社会・文化と結びついた技術のあり方を問い、未来の価値創造へとつながることを私は心から願っています。

受賞作品

— 大賞・優秀賞 —



ツアー プラン部門 優秀賞

荒い合意と場所の記憶を巡る5日間
〜デジタル民主主義・リノベーション・市民社会の最前線〜

慶應義塾大学 4年 林 智哉

旅程表

ツアープラン:期間 令和8年3月25日～29日

4日目

- 9:30 国立台湾文学館(旧台南州庁)
日本時代の庁舎を活用した博物館。台湾の複雑な言語・歴史的アイデンティティがいかに文学に昇華されたかを見る。
- 13:00 安平樹屋
ガジュマルの木が廃倉庫を飲み込んだ奇観。自然と人工物の共生、アートによる空間再生の事例。
- 15:30 信義街や路地裏のリノベ民宿・カフェ群を散策
若者が古い家屋をリノベーションして起業している現場を歩き、台南独自のスローライフ×起業の雰囲気を味わう。
- 18:00 台南グルメ(牛肉湯、サバヒー粥など)で食文化体験

5日目

- 9:00 台南市内の朝市を見学後、新幹線で台北へ移動
- 10:30 移動中の車内で、5日間の気づきをメモ(取材ノート)にまとめる
「デジタル」「人権」「コミュニティ」の3軸で日本への提言を整理
- 12:00 社会創新実験中心(Social Innovation Lab)訪問
旧空軍総司令部をリノベーションした、台湾のソーシャル・イノベーションの拠点。オードリー・タン氏がオフィスアワーを設けていた場所であり、壁のない対話空間を視察。
- 16:25※ 台北(松山)発
- 20:20※ 羽田空港着

※ 航空機の便の時間は固定となります。

1日目

- 10:25※ 羽田空港発
- 13:25※ 台北(松山) 着
- 15:30 NPO HUB Taipei見学
シビックハッカー集団g0v(ガブゼロ)の関連イベントや、市民団体の活動拠点を肌で感じる
- 18:00 寧夏夜市で夕食&視察
エコ夜市(プラスチック削減)やモバイル決済の導入率を確認し、伝統と最新技術の融合を体験。

2日目

- 9:30 国家人權博物館
(景美ホワイトテラー記念園区)
かつての軍事法廷・拘置所跡地。政治犯が収容された現場を歩き、台湾の民主化が多くの犠牲の上に成り立っていることを学ぶ。
- 13:30 独立系書店巡り(左転有書(Touat Books)など)
社会運動やNGOの拠点となっている書店を訪問。台湾の若者がどのように社会課題(ジェンダー、環境、中国との関係)に触れているかを知る。
- 16:00 大稻埕(Dadaocheng)散策
歴史的な問屋街が、若者の起業(カフェ、雑貨、デザイン)によって再生した小藝埕などを視察。
- 19:00 台北の学生・若手社会人との交流夕食会(想定)

3日目

- 8:30 台湾新幹線(HSR)で嘉義へ移動
- 10:30 嘉義県 新港郷(Xingang Township)訪問
新港文教基金会を訪れ、台湾の社区総体营造(コミュニティ・エンパワメント)の先駆的事例をヒアリング。住民自らがゴミ拾いや緑化から始めたまちづくりの歴史を学ぶ。新港奉天宮参拝。
- 15:00 台鉄で台南へ移動
- 16:30 林百貨(ハヤシ百貨店)
1932年開業のデパートをリノベーションした文化的ランドマーク。
- 19:00 神農街の古民家バーで一服

【若き行政委員×ライターが描く、社会変革のためのスタディツアー】

このプランは、単なる観光旅行ではありません。将来、社会学者ジャーナリスト政治家を目指し、現在進行形で岐阜の行政や政治塾で活動する私自身が、日本の停滞を打破する鍵を台湾に見出すための実地研修です。

1つ目の目的はデジタル民主主義の実装現場を見ることです。オードリー・タン氏らが築いた社会創新実験中心やg0vの活動拠点を訪れ、日本が目指すべきDXと市民参加の未来形を体感します。

2つ目の目的は発信の場を巡ることです。人権博物館や独立書店、リノベーションスポットを巡ることで、台湾の人々がいかんして歴史を記憶し、自身の言葉と空間でアイデンティティを表現しているかを、ライターの視点で取材します。

タピオカや絶景の背後にある、台湾社会の強靱さ(レジリエンス)と寛容さの源泉に触れるこの旅は、帰国後、私が記事や政策提言を通じて日本社会に還元するため大きな財産になると確信しています。



受賞作品

— 大賞・優秀賞 —



ツアー プラン部門 優秀賞

台湾ストリート系譜学

「衣服の「記憶」を辿る4泊5日の考現学」

早稲田大学本庄高等学院 3年 舟山 恭平

旅程表

ツアープラン:期間 令和8年3月25日～29日

1日目

12:40	【インタビュー】SYNDRO HOUSE(民生社区) このお店ではヴィンテージやワークウェア、ミリタリーを現代的に再構築したスタイルを提案しています。デザイナーShinway氏へ「既存のアメカジをどう再構築しているか」について聞き取り調査を行います(※要予約)
13:20	【移動】タクシーにて国立台湾大学へ(所要約20分)
13:50	【学術的検証】国立台湾大学社会学部で文化人類学を専攻する大学院生または教員と「眷村文化と現代ファッションの関係性」について研究会形式のディスカッションを行い、調査仮説の学術的妥当性を検証します(※要事前連絡)
16:30	【移動】タクシーにて藍家割包へ(所要時間約10分)
16:45	少し早めの夕食(藍家割包にて) 台湾式ハンバーガーを食べます
17:45	【移動】藍家割包(徒歩5分)→公館駅(MRT松山新店線)→西門駅(徒歩3分)→萬年商業ビル
18:10	【実用品調査】萬年商業ビルにて、ファッションとして消費されるのではなく、「実用衣料」として消費されるミリタリー用品の流通状況を、軍用品店にて確認します
19:40	【移動】萬年商業ビル→ホテル
20:00	ホテル帰着・調査ノート整理

10:25*	羽田空港発
13:25*	台北(松山)着
14:00	【移動】松山空港駅(MRT文湖線)→南京復興駅(乗換:MRT松山新店線)→西門駅→ホテル
14:50	ホテルチェックイン(西門エリア) 荷物を置き、調査機材を準備する(滞在約40分)
15:30	【現場調査】西門町「昆明街96巷(米国街)」へ。 アメカジ第一世代の老舗店主に対し、1980年代のブームの愛情と現在の仕入れルートについてヒアリング調査を実施
17:30	【移動】西門町中心部へ(徒歩10分)
17:40	【定点観測】西門町の若者スナップ 路上にて10代から20代を対象に、Levi'sやミリタリーアイテムの着用率および着こなしの傾向をサンプリング撮影し、記録
20:00	夕食(西門町にて現地のローカルフードを摂取)
21:00	【移動】お店→ホテルへ

2日目

10:00	【移動】ホテル→西門駅(MRT板南線)→忠孝新生駅(徒歩5分)→華山1914文創園區
10:30	【観光】華山1914文創園區を観光 台北を代表するアートとカルチャーの発信地。歴史的建築物のリノベーションやクリエイティブなショップが豊富
12:30	【昼食&編集作業】興波珈琲(Simple Kaffa) 世界バリスタチャンピオンの店。 収集したデータを整理し、ZINE『TAIWAN STREET ARCHIVE』のラフ構成と記事のライティングを行います
16:30	【移動】興波珈琲(Simple Kaffa)(徒歩5分)→忠孝新生駅(MRT板南線)→西門駅(徒歩7分)→城中市場・博愛路エリア
17:00	【補完フィールドワーク】城中市場・博愛路エリア 台北旧市街に残る古い看板のフォント、建物の窓枠、路地の色彩など、都市のタイポグラフィを詳細に撮影し、ZINEの視覚的素材として収集します
19:00	夕食(老牌牛肉拉麵大王にて) 戦後の労働者や学生を支えた「パワーフード」の歴史を感じられるニンニクのパンチが効いたラーメン
20:20	【移動】老牌牛肉拉麵大王(徒歩9分)→北門(承恩門)
20:30	北門(承恩門)にてZINEの表紙を飾る写真を撮影。 清の時代の姿を残す唯一の城門
21:00	【移動】北門(承恩門)→北門駅(MRT松山新店線)→西門駅→ホテル

9:20	【移動】ホテル→古着屋(Blue Monday Vintage)
9:30	【市場調査】台湾全土に展開する古着チェーン店を訪問し、マス層(一般消費者)に流通している古着の価格帯と品質、産地タブの傾向を統計的に調査
11:00	【移動】古着屋(徒歩7分)→西門駅(MRT松山新店線)→中山駅(徒歩4分)→赤峰街
11:20	【街区変遷調査】かつての自動車部品街が、いかにして感度の高い古着・雑貨街へと変貌したか、リノベーション事例を観察し記録
13:00	【移動】赤峰街→中山駅(MRT淡水信義線)→民権西路駅(徒歩10分)→黄記魯肉飯
13:20	昼食(黄記魯肉飯にて) ミシュランガイドのビブグルマンに選出される有名店
14:20	【移動】黄記魯肉飯→民権西路駅(MRT淡水信義線)→中山駅(徒歩1分)→誠品生活南西書店
14:35	【文献調査】誠品生活南西書店 台湾のカルチャー誌を閲覧し、現在のアメカジや古着スタイルがどのような言葉で若者に訴求されているかを分析しノートに記録
16:20	【移動】誠品生活南西書店→光點台北(徒歩4分)
16:25	【都市観察】中山北路エリアの光點台北へ。 かつての米国大使官邸(現・光點台北)などの外観を視察し、冷戦期における米軍・米国文化の物理的な痕跡を確認
17:05	【観光】条通エリアを観光 日本統治時代の区画整理の名残の残るエリアで歴史を感じることできる
18:20	【移動】条通エリア→寧夏夜市(徒歩16分)
18:40	夕食(寧夏夜市にて) 屋台が立ち並び、大人気の夜市。台湾の活気を摂取
19:40	【移動】寧夏夜市→Travis Vintage & Used Clothing(徒歩8分)
19:50	【専門家ヒアリング】Travis Vintage & Used Clothingへ。台湾ヴィンテージ界のキーマンである店主を訪ね、台湾における古着文化の変遷について講義を受けます(※要予約)
20:40	【移動】Travis Vintage & Used Clothing(徒歩4分)→中山駅(MRT松山新店線)→西門駅→ホテル

3日目

9:00	【移動】ホテル→西門駅(MRT松山新店線)→中正紀念堂駅(乗換:MRT淡水信義線)→台北101/世貿駅(徒歩4分)→四四南村
9:40	【ルーツ探訪】四四南村(Good Cho's) かつての軍人村(眷村)を保存したエリアを視察し、アメカジの源流にある、米軍・軍属の生活史を確認し、旅の考察を深めます
11:00	昼食(好丘 信義店(Good Cho's Xinyi Store)にて) ベーグルを食べる。米軍由来のベーグルが台湾食材でローカライズされています。文化融合を楽しみます
12:00	【移動】タクシーにて松山空港へ(所要約20分)
12:30	【総括作業】松山空港待合室 ZINEのあとがき(Introduction)を執筆し、取材協力者へ送付するためのメッセージ原稿(英語・中国語)を作成します
16:25*	台北(松山)発
20:20*	羽田空港着

8:45	【移動】ホテル→西門駅(MRT松山新店線)→北門駅(徒歩8分)→永楽市場
9:00	【素材調査】永楽市場(2F・3F布市場) 巨大な生地問屋街にて、デニム生地やキャンバス地等の流通状況を調査し、服になる前の布から台湾繊維産業の厚みを知ります
11:00	少し早めの昼食(林合発油飯店にて) 創業100年を超えるおこわの超有名店
12:10	【移動】タクシーにて民生社区へ(所要約25分)

* 航空機の便の時間は固定となります。



台湾ストリート系譜学
「衣服の「記憶」を辿る4泊5日の考現学」
早稲田大学本庄高等学院 3年 舟山 恭平

なぜ、私たちはその服を着るのでしょうか。単なる装飾や消費行動として片付けられがちな「ファッション」という営みの中にこそ、教科書には載らない、日台関係の深層が刻まれていると私は確信しています。本企画『台湾ストリート系譜学』は、台湾の若者が愛する古着やアメリカジを鍵として、台湾の戦後史や社会の変容を読み解くこととする、極めて実践的なフィールドワークの提案です。

台湾と日本は、共にアメリカ文化の影響を強く受けながら発展してきた歴史を持ちます。かつて台湾には米軍協防司令部(USTDC)が置かれ、そこから放出された物資や文化が、現地の若者たちに新たなスタイルをもたらしました。これは戦後の日本におけるアメリカの受容とも重なる歴史

的体験です。しかし、台湾のファッションは単なる模倣ではありません。そこには、複雑なアイデンティティや政治的背景の中で独自に進化した台湾独自の「遺伝子」が存在するはずです。私は観光客として美しい景色を眺めるのではなく、一人の研究者として台北の路地裏に入り込み、衣服という最も身近な歴史資料から、その遺伝子を解読したいと強く願っています。

本プランの最大の特長は、徹底した現代考現学の実践にあります。有名な観光名所を巡るのではなく、西門町の古着屋街や中山の路地、そして布市場といった生活の現場に足を運びます。そこで、ショーウィンドウを見るだけでなく、店主へのヒアリング調査、販売されている衣服のタグの産地分析、そして路上を歩き交う

若者たちの定点観測スナップ撮影を行います。インターネットで検索すれば分かる情報ではなく、自分の足と目、そして対話によって稼ぎ出した二次情報を積み上げるからこそ、異文化理解の真髄であると考えます。

そして、この旅は行つて終わり、ではありません。調査の成果は写真と分析記事をまとめたZINE(小冊子)『TAIWAN STREET ARCHIVE』として結果

させます。このZINEは、私の思い出の記録である以上に、日台の若者をつなぐ「共通言語」としての役割を担います。取材に協力してくれた現地のショップや若者たちに完成品を還流することで、日本の高校生が彼らの文化をどう捉え、どう敬愛しているかを伝えたいのです。それは、言葉の壁を

超えた新しい文化の対話を生み出すきっかけになると信じています。さらに、完成したZINEはPDFデータ化してnoteやInstagram等のSNSで一般公開し、物理的な距離を超えて日台の若者が自由にアクセスできるデジタルアーカイブとして機能させます。同世代の日本人にファッションから入る歴史の扉を提供することも、私の重要な使命です。

最終日に訪れる四南村は、かつて軍人とその家族が暮らした場所であり、現代のストリートカルチャーのルーツの一つでもあります。おしゃやかな外見の奥底にある、冷戦や戦争といった重層的な歴史の物語に触れたとき、私は本当の意味で台湾を理解するスタートラインに立てるのだと思います。

*参考文献

- 1) 赤松美和子・若松大祐 編「台湾を知るための60章」明石書店、2016年
- 2) 『POPEYE』[特集:台湾のシティボーイたち。]マガジンハウス 2019年 4月号
- 3) Travel Kurarin【台湾/台北】行ってみた!西門駅の古着屋おすすめ9店舗まとめ
<https://www.kurakurarin.com/entry/taipeinishimonvintageshops> (最終閲覧日:2026年1月14日)
- 4) Lifestyling Log【台湾の電車の乗り方】台北MRT路線図&切符購入方法
<https://lifestylinglog.com/taipei-mrt/> (最終閲覧日:2026年1月14日)
- 5) Google Maps (Google LLC)

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

第22回 日台文化交流 青少年スカラシップ 募集要項

募集部門

- 作文部門
- ツアープラン部門

応募資格

- 作文部門: 18歳以下、高校2年生以下、国籍・性別・年齢・学年・専攻科に制限なし。台湾研修旅行に参加する意思があること。
- ツアープラン部門: 18歳以下、高校2年生以下、国籍・性別・年齢・学年・専攻科に制限なし。台湾研修旅行に参加する意思があること。

応募方法

- 作文部門: 作文のテーマは「台湾をテーマにした作文」。
- ツアープラン部門: ツアープランのテーマは「台湾の魅力を活かした4泊5日のツアー」。

募集締切

2024年1月12日(金) 必着

審査員

審査員長: 山本 浩司 (東京大学 名誉教授)

審査員: 山本 浩司 (東京大学 名誉教授)、山本 浩司 (東京大学 名誉教授)、山本 浩司 (東京大学 名誉教授)

お問い合わせ

募集要項詳細は、ウェブサイト上でご覧いただけます。
<https://adv.sankai.com/scholarship/>

作品募集パンフレット

第22回 日台文化交流 青少年スカラシップ エントリーシート

応募者情報

姓 名: _____ 性別: _____ 年齢: _____ 学年: _____ 専攻科: _____

住所: _____ 郵便番号: _____ 電話番号: _____

学校名: _____ 担任: _____

応募理由

作文部門: _____

ツアープラン部門: _____

審査員

審査員長: 山本 浩司 (東京大学 名誉教授)

審査員: 山本 浩司 (東京大学 名誉教授)、山本 浩司 (東京大学 名誉教授)、山本 浩司 (東京大学 名誉教授)

日本と台湾の新時代を拓く

第22回 日台文化交流 青少年スカラシップ

募集締切 2024年1月12日(金) 必着

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

台湾をテーマにした作文
台湾の魅力を活かしたツアープランを募集!

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

大賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

優秀賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

奨励賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

日本と台湾の新時代を拓く

第22回 日台文化交流 青少年スカラシップ

募集締切 2024年1月12日(金) 必着

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

大賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

優秀賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

奨励賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

お問い合わせ

募集要項詳細は、ウェブサイト上でご覧いただけます。
<https://adv.sankai.com/scholarship/>

日本と台湾の新時代を拓く

第22回 日台文化交流 青少年スカラシップ

募集締切 2024年1月16日(日) 必着

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

大賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

優秀賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

奨励賞: 台湾研修旅行(台湾研修旅行)にご招待!

お問い合わせ

募集要項詳細は、ウェブサイト上でご覧いただけます。
<https://adv.sankai.com/scholarship/>

産経新聞 作品募集広告(半5段)

日台スカラシップ 大賞に中野さん、長南さん

日本と台湾の若者による文化交流の促進を目指す「第22回日台文化交流青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、エバー航空、台湾新聞社)の優秀賞の受賞者が決まった。作

23点の応募があり、大賞に中野妃那さん(京都大学大学院1年)と写真右の「時を越えて繋がる私と台湾」が選ばれた。ツアープラン部門は

194点の中から長南晴矢さん(福島県立福島高校1年)と同左の「令和の米騒動」台湾の農業発展に貢献した日本人を学ぶ縦断旅」が大賞に輝いた。

各部門で大賞と優秀賞を受賞した8人は3月下旬の台湾研修旅行に招待される。

優秀賞の受賞者は次の通り(敬称略)。

【作文部門】石原歩佳(法政大学第二高校2年)▽塚原佳那子(江戸川学園取手中学3年)▽弘松詩菜(愛媛大学教育学部付属中学5年)

【ツアープラン部門】野寺悠太(桐高校1年)▽林智哉(慶応義塾大学4年)▽丹山恭平(早稲田大学本庄高等学院3年)

産経新聞(全国版) 2026年3月7日付

台日協会会長を学生8人表敬

スカラシップ

【台北「西見由章」】日本と台湾の若い世代の相互交流促進を目的とした「第22回日台文化交流青少年スカラシップ」

(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、エバー航空、台湾新聞社)を受賞し、台湾研修旅行に参加した学生8人は26日、台湾の対日窓口機関、台湾日本関係協会(台北市)の謝長廷会長を表敬訪問した。

台北駐日経済文化代表処代表(駐日大使に相当)や行政院長(首相)を歴任した謝氏は「台湾と日本は50年間の歴史を共有し、特別な絆がある」とあいさつした。

一行は教育部(教育省)も訪問。黄冠超教育参事が、日台の大学間で3千件以上の協定が結ばれるなど青少年交流が緊密化している現状を紹介した。京都大学大学院1年の中野妃那さんは「台湾は交換留学や奨学金の制度が多様で、国際教育に力を入れていると感じた」と話した。

産経新聞(全国版) 2026年3月27日付

「特別な絆がある」日台スカラシップの学生8人が台北で謝長廷・台日関係協会会長を表敬

2026/3/26 15:46

高松 22件 読者 | 中国・台湾



台湾日本関係協会の謝長廷会長(右から4人目)が来賓訪問した「日台文化交流青少年スカラシップ」の受賞者ら=26日、台北市(西見由章撮影)

日本と台湾の若い世代の相互交流促進を目的とした「第22回日台文化交流青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、エバー航空、台湾新聞社)を受賞し、台湾研修旅行に参加した学生8人は26日、台湾の対日窓口機関、台湾日本関係協会(台北市)の謝長廷会長を表敬訪問した。

台北駐日経済文化代表処代表(駐日大使に相当)や行政院長(首相)を歴任した謝氏は「台湾と日本は50年間の歴史を共有し、特別な絆がある」とあいさつ。学生から「台湾の国際性の強いを知りたい」と質問されると「日本人はじっくり時間をかけて問題を決めるが、台湾人は正しいと思えばすぐにやり、行動しながら修正する」と応じた。

産経ニュース 2026年3月26日付

日本と台湾の新時代を拓く

第22回

日台文化交流 青少年スカラシップ

日本と台湾の青少年による文化交流の発展を目指す「第22回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・JRA東海、EVA AIR、台湾新聞社)。昨年度に続き、作文部門とツアープラン部門で募集し、作文部門123名、ツアープラン部門194名、合わせて317名の応募があった。

作文部門では、中野紀恵さん(京都大学大学院修士1科)の詩を載せて見る。

私と台湾、ツアープラン部門では長岡真矢さん(福徳南立看護高校1年)の「令和の年輪」が、台湾の風景と共に賞状と共に日本人を学ぶ奨励状が、大賞に輝いた。今年度も台湾への研修旅行には各部門の大賞・優秀賞の計6名の学生が参加する。

本日3月22日には表彰式・交流会を執り行う。明日から日本を立ち、現地学生との交流や政府機関への訪問などで台湾について学び、日台の交流を深める。また、ツアープラン部門大賞作品の一部を基盤の研修旅行で訪問する。

旅程表 ツアープラン：期間 令和8年3月25日～29日

3日目	1日目	2日目	4日目	5日目
15:00 集合 15:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 24:00 本町 集合、ホテルに集合して出発	15:00 集合 15:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 24:00 本町 集合、ホテルに集合して出発	15:00 集合 15:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 24:00 本町 集合、ホテルに集合して出発	15:00 集合 15:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 24:00 本町 集合、ホテルに集合して出発	15:00 集合 15:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 16:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 17:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 18:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 19:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 20:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 21:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 22:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:00 本町 集合、ホテルに集合して出発 23:30 本町 集合、ホテルに集合して出発 24:00 本町 集合、ホテルに集合して出発

作文部門 大賞

令和の年輪、台湾の風景と共に日本人を学ぶ奨励状を、大賞に輝いた。

長岡真矢さん(福徳南立看護高校1年)

作文部門 大賞

時を越えて繋がる、私と台湾

中野紀恵さん(京都大学大学院修士1科)

主催: 産経新聞社

共催: 台北駐日経済文化代表処

協賛: JRA東海 EVA AIR 台湾新聞

協力: 外交部 教育部 台湾日本関係協会 TAIWAN 台湾観光庁

作文部門 優秀賞

野村 浩太 石野 夢生

林 悠希 林 悠希

永山 夢生 永山 夢生

ツアープラン部門 優秀賞

野村 浩太 石野 夢生

林 悠希 林 悠希

永山 夢生 永山 夢生

日台の若者が理解を深め 行動する時はまさに「今」

東京国際大学 国際関係学部教授・元産経新聞台北支局長 河崎 眞澄



産経新聞社主催の第22回「日台文化交流 青少年スカラシップ」で大賞や優秀賞に輝いた8人が3月に台湾研修を経験し、奨励賞に12人が選ばれたことにお祝いを申し上げます。同時に「台湾」に強い関心を抱いて作品を応募して下さいました全ての皆さんにも、ここに拍手を送ります。

作文部門で大賞を受賞した京都大学大学院の中野妃那さんは、「時を越えて繋がる、私と台湾」と題した文章で、「曾祖母が愛し、そして私へと命を繋いでくれたこの島。その歴史の深層に触れることが、私に課せられた使命」と綴っています。時空を超えた日台の「心の絆」。未来に繋ぐ熱視線を感じます。

たそうです。そして敗戦で着の身着のまま日本に引き揚げることになった曾祖母は「また来いよう」と叫んでくれた情愛に溢れた台湾の人々の声を、決して忘れませんでした。

中野さんは「その命が繋がったからこそ、今の私がここに立っている」といいます。曾祖母が愛したこの国の人々や価値観。現在も日台が良好な関係でいられるのは、「曾祖母たちの世代が築いた交流の積み重ね」があり、その上で「自分の物語」として台湾の若者との対話を切望するに至りました。

歴史を知ることこそ、未来を切り拓く重大な力です。東アジア情勢が日に日に緊迫度を増す中で、民主主義や自由、人権といった価値観を共有する大切なお隣の国、台湾といかに信頼関係を強め、互いに安定と繁栄、安全な社会を守り続けるべきか。

日台の若者が理解を深め、行動する時はまさに「今」です。

台湾の国家元首「総統」が、初めて1996年に有権者の直接投票で選ばれるようになってから今年で30年。民主主義国家として成長した社会に生まれ育った台湾の若者も30歳になりました。民主化の成熟を支えた台湾の全ての人々も、感慨ひとしおな30年でした。

私は「台湾」を知れば知るほど、「結局、日本とは日本人とは何か」との命題を探ることになると考えています。日本の姿が写し鏡のように浮かび上がるからです。実は台湾の人々にとつての日本も、同じかも知れません。

審査の過程でその経験を思い出し、「台湾」に関心を抱いてくれた全ての皆さんにこそ、やはり、日台の未来を切り拓く力があると、改めて確信しました。



日台文化交流 青少年スカラシップの審査を終えて

武蔵野大学客員教授・台湾在住作家 片倉 佳史

第22回を迎えた日台文化交流 青少年スカラシップ。昨年に続き、ツアープラン部門を振り返ってみたいと思います。今回の応募作品も例年以上のレベルとなっており、嬉しく思いました。私は台湾在住で、旅行会社や観光業者との接触も多いのですが、新鮮な切り口、練りこまれたコース、創意工夫、そして、仲間や友人に台湾の魅力を伝えたいという意気込み。これらは業界の人々にも高く評価されると思います。

周知のように、台湾と日本の関わりは深く、特に日本統治時代（1895～1945）においては数多くの歴史秘話があります。言い換えれば、日本と台湾がともに歩んだ時代。これを冷静に、かつ客観的に見

つめ、現代、そして未来に受け継いでいくことが求められています。また、日台の結びつきには様々な側面があります。台湾の郷土文化、歴史的歩み、人々の暮らしぶりなど、これらをしっかりと学ぶことで、日本という国家についても、幅のある考察が可能になると思います。そして、少し範囲を広げてみれば、アジアの中における日台関係、もしくは世界の中における日台関係というものも、新しい視点として存在してくると思います。

言うまでもなく、台湾は常に進化しています。そして、皆さんもまた、日々成長しているはず。ぜひとも、変わりゆく要素を連動させながら、皆さ

ん自身の「台湾観」を育ててほしいと思います。そして、今回のツアープランを肉付けし、よりハイレベルなものに仕上げるという作業もまた、意義があるはずです。

日本と台湾の間には独特な繋がりが存在し、他国間では見られない結びつきを誇っています。これらを皆さんが掘りおこし、学び、より多くの人に伝えていく。そういった作業を続けることで、新しい発想や豊かな思考、奥深い思慮などが生み出されると思います。今回の企画を経て得た台湾との「縁」。これをしっかりと胸に秘め、より深く台湾を学び、見つめていってください。親しき隣国・台湾はいつでも皆さんを待っていると思います。

第22回日台文化交流 青少年スカラシップ 実施報告書
発行・編集:産経新聞社



主催

 産経新聞社

共催

台北駐日経済文化代表処

協賛

JR東海

EVA AIR 

 プラスの力になる
台湾新聞
台湾と日本の架け橋 日本国と北米諸国の両方で読める台湾新聞



<https://adv.sankei.com/scholarship/>